University of Tsukuba
筑波大学

COLLEGE OF COMPARATIVE CULTURE

比較文化学類への招待

比文らしく、自分らしく。

2022

contents

01 学類長の挨拶

02 文化学のコスモス
02 自分の好奇心を探求していく！
比較文化学類で何を学ぶか
04 世界へと開かれた窓
04 語学教育・国際交流・留学
視野を世界へ
06 比文らしく 自分らしく
06 4年間をどう過ごす？
入学から卒業まで年間スケジュール
08 比文らしく、自分らしく
卒業論文

14 比較文化学類 17コースへの招待
［地域文化研究領野］
日本・アジア領域
14 日本文学コース
15 日本研究コース
16 中国文学コース
17 アジア研究コース
英米・ヨーロッパ領域
18 英語圏文学・文化コース
19 ドイツ語圏文学・文化コース
20 フランス語圏文学・文化コース
21 欧米研究コース
フィールド文化領域
22 文化人類学コース
23 文化地理学コース
［超域文化研究領野］
表現文化領域
24 テクスト文化学コース
25 文化創造論コース
26 ワンプラネット文学・文化関係学コース
文化科学領域
27 先端文化学コース
28 情報文化学コース
思想文化領域
29 現代思想コース
30 比較宗教コース

32 ここが知りたい！
Q&A

35 学生組織紹介
37 比文生の一日
38 卒業後の進路

41 総合選抜で受験し、2年次で比較文化学類に進む

比較文化学類 HP
http://www.hibun.tsukuba.ac.jp/
でも随時、情報を公開しております。

比文らしく、自分らしく

2020年という年は、新型コロナウイルス（COVID-19）の感染拡大によって、世界中が予想もしない過酷な体験を強いられる年となりました。2021年になっても、感染拡大は依然として続いています。

コロナ禍に象徴されるような予測できない社会現象に対し、受け身ではなく、主体的に対応できる力を身につけるためには、どうしたらよいのでしょうか。大学の存在意義にも通じるこの命題の解答は、幅広い教養と、自らの考えを論理的に発信し、行動する力を身につけることではないかと、私は考えます。

コロナ禍で外出自粛や休業要請が行われるなか、改めて注目された「歴史」が、約100年前にパンデミック（世界的な大流行）となり、日本でも猛威をふるったスペイン風邪でした。日本でのスペイン風邪では、約2800万人が感染、死者は38万人（48万人ともいわれる）に達したといわれます。スペイン風邪という「歴史」を問い直し、そこで得た教訓から、コロナ禍の対応やコロナ禍終息への道筋を学ぶという、「知の営み」が行われたのです。

比較文化学類の特徴は、こうした眼前の社会事象に対し、歴史学をはじめ、文学・文化学・地理学・人類学、思想・宗教・情報など、さまざまの研究分野からアプローチし、そこで得た教訓を論理的に発信する「知の営み」ができることです。比較文化学類には、地域文化研究と超域文化研究という2つの研究領野のもと、6つの領域と17のコースがあり、留学・国際交流・フィールドワーク・巡検など、国際的・対話的・能動的な学習経験の場を数多く提供しています。こうした教育プログラムに興味をお持ちのみなさんは、比較文化学類に来てください。

「比文らしく、自分らしく」大学生活をエンジョイしたい。こんなみなさんをお待ちしています。

比較文化学類長
伊藤　純郎

COLLEGE OF COMPARATIVE CULTURE

比較文化学類の特徴

文化学のコスモス
学際
interdisciplinary
→ p.02

世界へと開かれた窓
国際
international
→ p.04

比文らしく自分らしく
少人数教育
small-group teaching
→ p.06

自分の好奇心を探求していく！

比較文化学類で何を学ぶか

● 学ぶことができる主な学問分野

- **文学**：日本文学、中国文学、英米文学、ドイツ文学、フランス文学、比較文学、文芸学など
- **地域研究**：日本研究、アジア研究、欧米研究など
- **応用的な人文諸科学**：文化地理学、文化人類学、現代思想、比較宗教学など
- **文化学**：文化理論、表象文化学、大衆文化論、芸術文化論、身体文化論、映像文化論、情報文化学など

さらに現代の変化に応じた先進的な諸学問領域

これらを、閉ざされた専門分野の中でではなく、柔軟な組織（６領域と 17 コース）を通じて学修することが特色です。

比較文化学類のコスモス　6つの「領域」と 17 の「コース」

比較文化学類では、次のような教育目的・目標を掲げています。

人類が築いてきた様々な文化を、「現代性」と「学際性」という視点から捉え直し、それを通じて、グローバル化した社会・文化に関わる、広い視野と柔軟な発想力を備えた人材を育成します。さらに、外国語習得を通じた国際的コミュニケーション能力を高めることに努めます。

この大きな目的・目標を実現するために、比較文化学類のカリキュラムは６つの研究領域に分かれています。さらに、それぞれの領域はコースに分かれており、合計で17のコースが設けられています。

「領域」は、狭い学問分野にとらわれない広い視野をもって、それぞれの学問分野を横断して学修できるように学際的に作られています。「コース」は、３年生になってから皆さんが最終的に所属する基礎単位で、コースの教員と一緒に卒業論文を仕上げることになります。

ただ、どこの「領域」／「コース」に属していても、比較文化学類のカリキュラムは、皆さんの関心や興味にそって様々な授業科目が自由に履修できるように作られています。さらに、興味や将来の志望にあった学修をガイドするために履修モデルを用意して、皆さんの学修にふさわしいカリキュラムを作れるようにサポートします。

● 日本・アジア領域
日本とアジアにおける文化の諸相を文学・歴史・宗教・社会などに着目しながら体系的に学ぶ。
→ p.14

● フィールド文化領域
日本・世界における地域文化の多様性をフィールドワークによって明らかにし、人間と場所のかかわりを通して「人間とは何か」を体系的に学ぶ。
→ p.22

● 文化科学領域
生命・身体文化、メディア、ジャーナリズムなどをキーワードに、人間社会の諸問題について複合的な視点から探究する。
→ p.27

● 英米・ヨーロッパ領域
英語圏・ドイツ語圏・フランス語圏に加え、広く欧米の地域文化圏を対象に、文学・言語・歴史・宗教・社会などに着目しながら体系的に学ぶ。
→ p.18

● 表現文化領域
地域の限定を越えた文学や、多様な大衆文化、美術・映像・音楽などの表象文化といった人間の表現文化を広く探求する。
→ p.24

● 思想文化領域
思考・認識・言語・論理・倫理／社会・実践・経験・歴史・フィールドなどをキーワードにして、哲学や宗教を学ぶ。
→ p.29

語学教育・国際交流・留学
視野を世界へ

語学教育

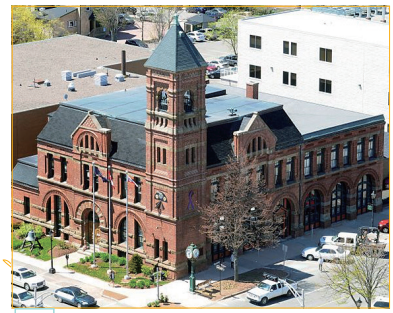
1～3年次の語学学修は選択必修です。1年次では英語のほかに、初修外国語としてドイツ語・フランス語・ロシア語・スペイン語・中国語・朝鮮語が開講され、2年次以降の専門外国語ではギリシャ語・ラテン語・インド古典語等の授業も受講できます。比較文化学類には英語による授業を担当している外国人教員がいますが、グローバルコミュニケーション教育センターにも多数のネイティヴ教員が在籍し、生きた言葉に触れることができます。また他国からの留学生にチューターやティーチング・アシスタントとなって参加してもらう授業など、実験的・先進的な授業も数多く展開されています。

留学

筑波大学は全世界に広がる160以上もの海外協定のネットワークがあり、比較文化学類の学生が利用できるものに限っても、その数は50以上です。

留学には語学力の養成に加えて、費用の問題、現地語での慣れない書類準備など、さまざまなハードルがありますので、準備は早いほうがいいでしょう。本学類の国際交流委員会の教員の他にグローバル・コモンズ（大学の留学支援組織）が具体的な相談に乗ってくれます。また、実際に留学した先輩方からの体験談などは大いに参考になることでしょう。

本学類が2013年9月よりスタートさせたカナダ・プリンス・エドワード島大学（UPEI）との交換留学制度は、学類カリキュラムと一体化した形で、半年～1年留学できる、大変ユニークな制度です。同大学では本学類生を中心とした夏期英語研修も行われています。



カナダ　プリンス・エドワード島大学
（学類独自の交換留学制度あり）

比較文化学類では提携校との留学プログラムの紹介のほか、留学者の体験談や必要な手続き、危機管理対応などについて詳しく説明した**留学ハンドブック**を作成しています。留学を希望する学生は必携です。学類ホームページ（http://www.hibun.tsukuba.ac.jp/）からダウンロードして読めるようになっています。

21世紀、世界はますます緊密な結びつきを強めています。

グローバルな時代を生きる力を養成するには、語学力はもちろんのこと、異文化に対する知識、他者を受け入れる心構えなども必要です。そのためには他国の人々と実際に交流を持ち、自分たちとは異なる思考方法や生活習慣を肌で感じることが、何よりの近道になります。

比較文化学類では多彩な語学教育をはじめとして、みなさんが世界へと視野を広げるためのさまざまなツールを用意しています。諸外国からの留学生との国際交流プログラムに始まり、世界各国の50以上もの大学との提携関係を通じて、さまざまな期間、さまざまな形での留学のチャンスがあります。相手先によっては単位互換によって休学期間を作ることなく卒業できたり、留学先での追加の授業料を減免されたりするなど、大学・学類も環境の整備に力を入れています。

プリンス・エドワード島大学 (UPEI) 夏期英語研修

2014 年度より夏休み中の 3 週間、学生をカナダ東部のプリンス・エドワード島大学（UPEI）に送り出して、英語と異文化を学ぶ研修を開催しています。

2014 年度参加生砂子千尋さん (参加時 2 年生) とホストファミリー。週末には色々なところへ連れ出してくれたそうです。

Q. どんなプログラム？

派遣先のカナダは世界有数の多民族国家です。『赤毛のアン』の舞台となったプリンス・エドワード島も、街並みに英国的伝統を残す一方、世界各国からの留学生が集まり、グローバルな空気が満ち溢れています。そんな空間で、参加生は 3 週間ほぼ毎日 3 時間以上、英語と文化や社会の授業を受けます。2019 年度は 16 名が参加しました。

Q. 宿泊先は？

ホームステイをします。1 家庭につき日本人 1 名ですが、場合によっては外国人留学生がいっしょになることもあります。

Q. 単位は？

「比較文化国際研修 I, II」という授業として開講しているので、研修修了生には 3 単位が付与されます。

参加生の声

- 行くまでは英語で話すことや聞くことが怖かったけれど、研修から戻った今は、英語を楽しんでいる！
- 課外活動も全部楽しかった
- カナダの人々はとても親切
- プリンス・エドワード島は治安が良いので、安心して過ごせた
- ホームステイがとてもよかった
- 同じホームステイ先の韓国人と仲良くなったこともとても良い異文化交流だった

※旅費等の実費は基本的に参加者の負担となりますが、海外留学支援事業「はばたけ！筑大生」など、大学からの支援金制度があります。

国際交流

他国の文化を肌で感じ、また留学生に自国を紹介したい――学生たちのこうした思いや取り組みを、学類も随時応援しています。

2015年度から、大学の支援（TA・TFを活用した主体的学修を促す教育推進事業）を受け、多言語・異文化の学習環境づくりに取り組みました。英語、ドイツ語、ロシア語の語学の授業や、テクスト文化学、中東・中央アジア文化研究などの専門科目に、留学生をティーチング・アシスタントとして積極的に採用し、受講生の語学力の向上や文化交流を行いました。また2月には笠間市観光協会の協力で、留学生も参加する日本文化体験学習を実施しました。オハイオ州立大学比較研究学部との教育交流では、オハイオ州立大学の15名の学生さんたちが、2019年5月に2週間学生寮に滞在し、日本のポピュラーカルチャーに関する研修を行い、本学類生と交流を行いました。

4年間をどう過ごす？

入学から卒業まで年間スケジュール

入学

1年次 ＞ 2年次

カリキュラム▶▶▶

基礎科目・比較文化研究・概論 ｜ 専門導入基礎演習・専門外国語

初修外国語は、独・仏・露・西・中・朝の6語種から選べます。

全学で開講されている科目から、それぞれの

卒論▶▶▶

11月：研究計画案提出▼

テーマを見つける

進路▶▶▶

関心・適性を見極める

各種試験が必要な職種は早めの準備を。教職志望は授業もしっかり。

留学▶▶▶

世界中に広がる

年間スケジュール

学期の区分（2学期6モジュール制）

※1つのモジュールは、5週の授業日数を確保
◇春学期　A・B・Cの3モジュール
◇秋学期　A・B・Cの3モジュール
※日付は2021年度。

大学説明会

夏季休業（8/7～9/30）

4月 April

春学期開始（4/1）
入学式（4/5）
春学期授業開始（4/8）

5月 May

春季スポーツデー（5月中旬）
やどかり祭（5月末）

6月 June

入学式

7月 July

やどかり祭

8月 August

大学説明会（8月）

9月 September

秋学期入学式（9/30）

比較文化学類の最大の特徴は、豊富な教授陣の提供する多彩な授業の数々。1年生のための比較文化研究に始まり、300近い専門科目、ネイティヴ教員や留学生が活躍する外国語の授業など、魅力的な科目が多数設置されています。しかも専門科目の多くは20人以下という、ぜいたくな少人数体制を敷いているのです。

どういう授業に参加するかは、あなたが決めます。多くの選択肢を前に、迷ってしまっても大丈夫。年度初めには教員や学生たちによるきめ細やかなカリキュラム・ガイダンスや履修相談会が開かれています。

サークルやバイトもあなたの大学生活を豊かに彩ってくれるはず。初めて一人暮らしをする人も多いでしょう。生活スタイルを早くつかみ、充実したキャンパスライフを送ってください。

3年次 → 4年次 → 卒業

3年次	4年次
専門外国語	卒業論文 卒業論文演習
専門科目　卒業論文基礎演習	
領域・コースごとに設定された 300科目近くに及ぶ各種授業	
必要、興味関心に応じて受講（自由科目）	

専門的な内容を、少人数授業でしっかり学べる。

合計124単位を取得

11月：テーマおよび指導教員決定 ▼ **テーマを膨らませる**

▼6月：仮題目決定 **テーマを構成する**

▼10月：題目最終提出 ▼12月：論文提出 **卒論を書く**

就職／進学　それぞれにあった準備

就職サポートも充実！
（p.38へ）

50以上の協定校

留学で視野を広げよう！
（p.04へ）

冬季休業（12/29 ～ 1/5）

春季休業（2/18 ～ 3/31）

10月 October — 秋学期授業開始（10/1）

11月 November — 雙峰祭（11月上旬）
秋季スポーツデー（11月下旬）

12月 December

1月 January

2月 February

3月 March — 卒業式（3/25）

卒業式

（注）新型コロナ・ウィルスの感染状況により2021年度の年間スケジュールは大幅に変更される場合があります。

卒業論文

比文らしく、自分らしく。

少人数教育の総決算

テーマを膨らませる

時期の目安 2～3年次

2年次には専門導入基礎演習を受講し、主な関心を明確にする「研究題目決定書」を提出します。学生は自分のテーマにもっとも近い教員を探し、主指導教員として指導を受けることになります。これにより研究の最初の、大まかな方向付けがなされます。
3年次になると主指導教員のほかに、副指導教員を決め、卒業論文基礎演習を受講し、よりテーマを具体化した「卒業論文計画書」を作成します。ここでは、タイトルだけではなく関連文献や、テーマに沿った大まかな資料収集・調査方法なども考えます。

どんな研究がしたい？

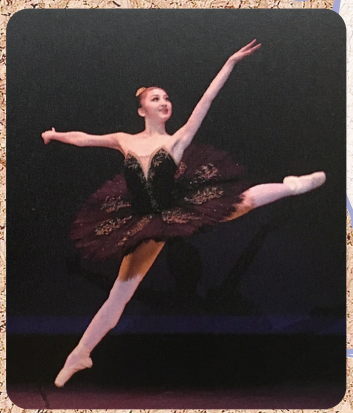
テーマを探す

時期の目安 1～2年次

入学し新生活に慣れるための各種オリエンテーションを終えると、カリキュラム作りが始まります。6つの領域のなかから、自分が学んでみたいのはどの領域なのかを決め、それを柱にして受講する授業を決めていきます。授業を受け、レポートを作成することなどを通じ、自分なりの関心を具体化させていきます。

所属する領域はどこ？

先輩たちの卒業論文体験記



私は「バレエの美しさ―愛と死をテーマとする作品の分析」という論文を執筆しました。バレエはなぜ美しいのかという大きな疑問に対して、研究対象とする作品を絞った上で、観客としての視点と踊り手としての視点を合わせて論じました。バレエをテーマに卒業論文を書くことは入学当初から決めていましたが、具体的なテーマを決めたのは3年になってからです。4年の秋からロシアのバレエ団へ短期研修に行くことになったため、4年の春学期は周りの学生と比べてかなり予定を前倒しして進めることになりましたが、主指導・副指導の先生方のご理解とご協力のもと、執筆を進めることができました。
自分の好きなものや興味あることを論文のテーマにできるというのは、比較文化学類の強みだと思っています。私はこの論文の執筆を通して、バレエに対する多角的なアプローチにより今まで気づかなかった見方を多く発見することができました。それらはバレリーナになった現在にも活かされています。

表現文化領域　文化創造論コース　2020年卒業　**熊谷美帆**さん

比較文化学類は“何を学ぶのか分かりにくい”とよく言われます。しかしそれは裏を返せば、「どんなテーマにも対応できる」ということなのです。

現代社会は高度に複雑化しており、特定の領域の知見だけでは問題解決に至る道のりを十分に描けないこともあります。比較文化学類では、各学年定員80人の学生に対して、6領域17コースの約50名のバラエティに富む教員たちが対応しています。その指導は、マンツーマンを主とした徹底した少人数教育。複合的な知の鍛錬による問題設定と解決のスキルを身に付けるには、最高の場と言えるでしょう。

こうして養われる力こそ、複雑化し多様化する現代社会において、普遍的に必要とされる能力なのです。卒業論文作成のプロセスは、入学して最初のカリキュラムを組む時点から始まっています。日々の学習を通じて、あるいは大学生活全般を通じて、見聞し体験した事柄の中から、あなたならではのユニークなテーマを探してください。それを教員や学友にぶつけてみてください。刺激的な議論の中から、“論文”にしたい何かが、次第に育っていくはずです。

どんな論文を書こうか？

テーマを絞りこみ構成する

時期の目安
3年次後半〜
4年次夏休み

4年次の6月には仮題目を提出します。これまで積み上げてきた調査・研究や議論から、あなたのテーマは大きく膨らんでいるはずです。論文を書くとは問題意識を明確化し、それを説得力のある形で論理的に構成すること。ここではいよいよ、論文作成を念頭にテーマを絞り、それを軸に議論を取捨選択し肉付けしていきます。

ひたすら執筆。がんばれ！

論文を書く

時期の目安
4年次夏休み〜
12月

夏休みが明けると、中間発表会がコースごとに行われます。指導教員・コース教員・友人や後輩たちの前で自分のテーマと章立てなどについて発表します。そこでさまざまなコメントやアドヴァイスをもらい、題目を決定し、論文執筆の最終段階へと向かいます。下書きは逐次、論文の書式などについても指導教員から具体的な指導を受けます。

提出

時期の目安
4年次12月後半

お疲れさま！

審査を受ける

時期の目安
4年次1月

論文提出後はコースごとに行われる公開審査に備えます。審査の場では主指導・副指導教員から専門的なコメントが伝えられます。考えることは、大学で終わるわけではありません。卒業してからも、「自分だけのテーマ」を深めていってください。

先輩たちの卒業論文体験記

私は「神西清（じんざい）の翻訳と創作―言語観とその実践―」という卒業論文を書きました。論文では、堀辰雄の友人で翻訳者や作家であった神西の、「ワーニャ伯父さん」の翻訳と作品集『少年』について直筆原稿や創作ノートも用いて論じました。先行論に乏しく、ロシア語もあり苦労はしましたが、先生方のご指導もあってなんとか書き上げることができました。また国語教員免許取得のため多く受講した日本文学の授業で研究の基礎を、「欧米文化論演習Ⅲ」で翻訳論を学んだほか、ゼミ形式の「テクスト文化学研究演習Ⅲ」で執筆のペースを掴むことができました。

文学主専攻 総合文学
（現在の表現文化領域 テクスト文化学コース）2014年卒業　坂田和紀さん

卒業論文 比文らしく、自分らしく。

先生方の研究を拝見

最近刊行された教員の著作から

比較文化学類の教員はどんな研究をしているのでしょうか？
近年刊行された著書・訳書などの一部を紹介します。
さらに詳しく知りたい人は、図書館などで実物を手にとってみましょう。

稀代麻也子	日本・アジア領域	狩野直禎先生追悼『**三国志論集**』（共著）（汲古書院、2019年） 三国志学会の設立以来2017年のご逝去まで、会長として後学を牽引された狩野直禎先生の追悼論文集。曹植が皇帝である兄に提出した作品を、『文選』等と対照しつつ『三国志』の引用に従って読み解いた一篇を担当。
石塚修	日本・アジア領域	**『納豆のはなし―文豪も愛した納豆と日本人の暮らし』**（大修館書店、2016年） 文学作品などを中心にさまざまな納豆にまつわるエピソードを追いかけ、日本の食文化とのつながりを楽しく軽妙に解き明かす。知ってナットク、読んであと引く、納豆にまつわるつぶよりのはなしの数々を紹介しています。
伊藤純郎	日本・アジア領域	**『特攻隊の〈故郷〉霞ヶ浦・筑波山・北浦・鹿島灘』**（吉川弘文館、2019年） 訓練の地に刻まれた特攻隊の原風景を探り、その歴史を問い直した本です。

日本・アジア領域

令和２年度卒業論文タイトル一覧

- 『更級日記』の文字遣い研究
- 岡本綺堂『半七捕物帳』における怪談
- 『当世書生気質』研究
  ～『小説神髄』の実践として～
- 寺山修司作品における「小説」の位置づけ
- 陶淵明「飲酒二十首」における「酔ふ」ことの価値
- 四国遍路における接待と民衆
  ―徳島県阿波市の事例を中心に―
- 佐野市における天明鋳物の文化的活用の現状と展望
- ロックミュージックに映る社会の病理
  ―Suchmos の歌を事例に―

英米・ヨーロッパ領域

令和２年度卒業論文タイトル一覧

- The Effects of Paratext on Film:
  Studio Ghibli Movies in Japan and the United States
- Gazing in Oscar Wilde's *Salome*
- The Influence of Education in Hogwarts School:
  A Study with Particular Attention to the Houses and Quidditch
- ドイツにおける現代史教育　―異文化間教育の観点から―
- ベルリン・ホロコースト記念碑における想起の主体
- 中世ヨーロッパにおける「愛」　―ファブリオの観点から―
- スペイン語から見るヒスパニックの特徴と変容
- 日本語と英語の言語的特性の比較
  ―ダジャレと pun を比較して―

伊藤純郎・山澤学 日本・アジア領域	**『破壊と再生の歴史・人類学』**（筑波大学出版会、2016年） 自然災害や戦争など、社会の大きな変化を人々がどう乗り越え、記憶しているかを論じています。編者のほか、比文からは佐藤（千）・木村（周）も執筆しています。
アンドレ・ラフォンテーヌ 英米・ヨーロッパ領域	***Re-Focus: The Films of Xavier Dolan***（編著）（Edinburgh University Press, 2019年） ケベックの若き映画監督・製作者・脚本家であるグザヴィエ・ドランの多彩な創作活動を分析する論文集。 ***Chop Suey and Sushi from Sea to Shining Sea: Chinese and Japanese Restaurants in the United States***（共著）（University of Arkansas Press, 2018年） アメリカ各地の中華料理店と日本料理店の発展の歴史を明らかにする論文集。1930年代ハリウッド映画におけるチャプスイと中華料理店の表象を分析する論文一篇を担当。
木村周平 フィールド文化領域	**『災害文化の継承と創造』**（共著）（臨川書店、2016年） 東日本大震災で被災した地域社会の生活再建、伝統芸能の継承、新たな文化の創造の生き生きした事例集です。
塩谷哲史 フィールド文化領域	**『中央アジア灌漑史序説―ラウザーン運河とヒヴァ・ハン国の興亡』**（風響社、2014年） 乾燥地域に位置する中央アジア。大規模開発が進んだソ連期以前の、水利用をめぐる人々の営為や未完のプロジェクトを描きました。

フィールド文化領域

令和２年度卒業論文タイトル一覧

- 韓国における日本食の受容と展開 ～個人経営店における戦略に注目して～
- メイクとは何か：大学生たちの選択から考える
- 東日本大震災後９年を迎えた県外避難者支援団体の実態 ―千葉県における支援の形成と発展―
- コミュニティとしての西崎青年会
- 墨田区向島のまちづくり運動に関する考察 ―各運動間の繋がりに着目して―
- 地域の中の道の駅　―道の駅常陸大宮かわプラザを事例に―
- パンとつくば
- 地域と共にある公立文化施設　―「杉田劇場」を事例に―
- タクシー乗務員という生き方
- 地域資源の魅力を海外へ発信　―柔軟な形で現れる「笠間焼」を例に―
- 技術革新による人々の行動変化 ―観光行動におけるスマートフォン活用―
- 三浦のまちづくりのエスノグラフィ ―地域特性と文化からみた今後の展望―
- 妖怪と共に生きる人々　―創出する「伝承者」のあり方について―
- 伝説の形成・変容・信仰に関する歴史民俗学的研究 ―勝之丞伝説を中心に―
- トゥヴァ共和国における民族音楽の歴史的な展開と現代的解釈 ―ホーメイを事例として―
- 日本における昆虫食文化の空間構造　―長野県伊那市を事例に―
- 都市内公共交通としての BRT の成立過程と課題 ―鉄道廃線跡を利用した「ひたち BRT」を事例に―
- 東京大都市圏郊外における既成市街地と新規開発地のマンション居住者の差異―埼玉県越谷市を事例に―
- 長野県阿智村における星空ツーリズムの魅力とその形成
- つくば市における駅周辺の土地利用変化―つくばエクスプレス開通にともなう機能集積に注目して―
- 宿泊型ゲストハウスの日常性と宿泊施設選択に関する地理学的研究
- 農村移住者の地域イメージが居住地選択に与える影響 ―長野県・小川村を事例に―
- 非農家主導による水田型市民農園の成立要因 ―埼玉県さいたま市「水のフォルム市民田んぼ」を事例に―
- 埼玉県朝霞市におけるシェアサイクルの利用の実態 ―交通手段の選択に着目して―
- Does BRT have impact on controlling car use? Travel mode choice among high-income households in Bogota, Colombia

私の卒業論文

卒業論文―私にとってそれは、大学生活の集大成、自分の研究を論文という長い長い文章にまとめる一種の修行、完成した暁には達成感・恍惚感に加えてさまざまな複雑な感情を味わえる、今となっては貴重な体験です。

比文には、好奇心が旺盛で何が自分に向いているのかを見極めたいという人が大勢いて、そうした人たちと雑談混じりに研究について話し合ったことはとても刺激的でした。大学では本格的に選択したり考えたりする機会が多いのですが、その総決算が卒論なのではないかと思います。

当時私は、理系も文系も発想的には面白いなと感じていたのですが、思いっきり文系の文学に振り切りました（夏目漱石も言っていますが文学と科学は相性がよいのです）。先生方の講義に刺激を受けつつ、日本文学にどんどんはまっていきました。そして自分が日本の近代化に関心があることに気づき、二十世紀前半、グローバル化が進む大正時代の海外経験者でもあった永井荷風という作家を通して、人はなぜ文学・物語を必要とするのかという、大変大きな謎に向かって突き進んでみたくなってしまったのです。

かくして、かえって卒論で膨れ上がってしまった好奇心がその後も研究を続ける糧となり、みなさんに向けてこの文章を書いているにイマつながっているわけなのですが、そう考えると、やはり卒業論文はあなどれないな、と驚くばかりです。

馬場美佳先生（92年比文入学）

卒業論文 比文らしく、自分らしく。

先生方の研究を拝見

最近刊行された教員の著作から

青柳悦子 表現文化領域	**『バンド・デシネ　異邦人』**(ジャック・フェランデズ翻案・画、青柳悦子訳)、(彩流社、2018年) 20世紀世界文学の最高傑作と称されるアルベール・カミュの小説をフレンチ・アート・コミックで。
齋藤一 表現文化領域	**『〈原爆〉を読む文化事典』**（共著）（青弓社、2017年） 「原爆文学研究会」の活動の集大成的な事典。私は「2　慰霊碑碑文論争」「24　英米文学者と核時代」「58　復興」の３項目を執筆しています。
小川美登里 表現文化領域	**『いにしえの光』**（水声社、2016年）、**『さまよえる影たち』**（共訳、水声社、2017年）、**『謎』**（水声社、2017年）、**『落馬する人々』**（水声社、2018年） フランスの現代作家を紹介する「パスカル・キニャール・コレクション」から、小説、短編、随筆を駆使する現代最高峰の文学作品を豊かな日本語で。
佐藤嘉幸 表現文化領域	佐藤嘉幸＝廣瀬純**『三つの革命、ドゥルーズ＝ガタリの政治哲学』**（講談社選書メチエ、2018年） フランス現代思想の最重要書『アンチ・オイディプス』、『千のプラトー』、『哲学とは何か』の三部作に資本主義打倒の戦術を読み解くスリリングな試論。
廣瀬浩司 文化科学領域	**『歓待について』**（ジャック・デリダ著、廣瀬浩司訳）（ちくま学芸文庫、2018年） 移民・難民の時代に哲学は何をできるのだろうか。「他者」を受け入れるとはどのような「出来事」なのか、脱構築の哲学者デリダが解き明かす。

表現文化領域

令和２年度卒業論文タイトル一覧

- ジャニーズにおける「育成系ファン・カルチャー」の活発化 ―YouTube を活用した「素」の演出―
- ディズニープリンセスのあり方―男女表象の変化から―
- 吾妻ひでおとマンガ　―自画キャラクターの分析を通じた作家理解―
- 小川洋子作品における〈空間〉意識 ―〈閉じられた領域〉と〈ファンタジー的曖昧さ〉について―
- 向田邦子作品における女性への視線　―「女ぎらい」の正体―
- 辻村深月作品における学生像　― 10 代の抱える生きづらさ―
- 日本文学の英語翻訳の困難さ ―丸山くがね『オーバーロード』を中心に―
- 『ベロニカは死ぬことにした』と『天国はまだ遠く』を通して見る 2 つの自殺と男性表象
- 現代日本文学におけるレズビアン的存在とその表象
- 世界の只中にあるかたさ　―川上弘美とメルロ＝ポンティ―
- 米澤穂信〈古典部〉シリーズにおける挫折と成長
- 映画作品におけるフロイト理論の応用　―『シャイニング』（1980）分析からみる「不気味なもの」の表現について―
- ミュージカル作品における死の擬人化 ―『エリザベート』と『ロミオとジュリエット』を中心に―
- 馬と人間の関係性について
- 瀬尾まいこ作品における「食」の描写について
- 女児向けアニメから見る、少女たちが憧れる「カワイイ」対象の変遷
- アイドルの変遷に見る社会の変化
- 映画ポスターの女性表象　―海外作品が日本で公開される際のポスタービジュアル改変について―
- BLからみる日本のジェンダー観
- 月経のタブー視の変遷とその社会的背景
- フォリアからみる音楽の継承 ―現代におけるクラシック音楽の可能性
- 日常の美学における聴覚的アプローチ
- 今私たちが考えるべきイノベーションという概念 ～ INNOVATION WORLD FESTA を参考に～
- 撮影行為から考えるフィルム写真の復権
- おもちゃと子どもの創造性について
- 「魔法少女」とジェンダー　―平成におけるアニメーションを中心に―
- 映画『Shall we ダンス』の日米版比較から見る日本人像
- 台湾人アイデンティティーとポストコロニアル ―台湾ニューシネマ期以降の映画を事例として―

文化科学領域

令和２年度卒業論文タイトル一覧

- 「リズムの哲学」から「メロディーの哲学」へ ―山崎正和『リズムの哲学ノート』考察―
- 近現代日本社会における体格の規範をめぐって ―痩身 / 美 / 健康に関する考察―
- 『暮しの手帖』に見る暮しの変遷　―ていねいな暮しの成立―
- コロナ禍における大学生の孤独感とパーソナル・ネットワーク
- Instagram の利用動機と映像共有行為の関連について
- コンテンツツーリズムが起こる過程とメディアが持つ効果
- インスタグラム利用における承認欲求について
- 地域コミュニティにおける地域紙の役割 ―地域紙「宇部日報」の計量テキスト分析から―

対馬美千子 文化科学領域	***Samuel Beckett and Trauma***（共編著）（Manchester University Press, 2018年） ベケットの作品とトラウマの関係について論じた８つの論文を収録。現代のトラウマ理論とベケット作品との関係についても考察しています。
海後宗男 文化科学領域	***Social Media and Civil Society in Japan***（Palgrave Macmillan, 2017年） 東日本大震災以降のソーシャル・メディアと市民社会に関する様々な実証的研究の成果を海外の研究者のために紹介しています。
木村武史 思想文化領域	**『媒介物の宗教史』（上巻）**（共著）（リトン、2019年） 宗教現象において『物（もの）』を宗教的世界と人間世界を媒介する事物と捉えた宗教史学研究会の共同研究の成果。現代社会におけるロボット・AIを取り上げた。 ***Handbook of Indigenous Religion(s)***（共著）（Brill, 2017年） グローバルな視点から世界の諸先住民族の現在を取り上げた共同研究の成果。日本の先住民族アイヌの現在を取り上げた。
日守麟伍 （津城寛文） 思想文化領域	**『古語短歌――日本の頂点文化』**（Amazon Kindle版、2019年） 日本の頂点文化としての和歌について、自らの作品と、古語短歌の解説をまとめたもの。姉妹編に『くりぷとむねじあ和歌集――言霊の森』（Amazon Kindle版、2019年）がある。

思想文化領域

令和２年度卒業論文タイトル一覧

- ゾロアスター教神話に見られる被造物の生死と善悪
- マレーシアのハラール産業について
- 宗教教育における寛容さと対宗教安全教育の両立について
- 変性意識状態の諸相―ドラッグの位置付け―

私の卒業論文

じつを言うと、この原稿を依頼されたとき、困り果ててしまいました。というのも、学生時代の私は、サークルとバイト一辺倒で、学類の授業や行事にはほとんど参加していなかったからです。3年生になるときに、文学と思想のどちらのコースを選択しようか迷い、ずいぶん悩んだあげく文学にしました。いまでは考えられないかも知れませんが、教室で煙草を燻らせながら三島由紀夫について語る先生や、教卓の上に腰を下ろして足を組みながら英文学についてお話してくださる先生がいらして、なんとなくそういう独自のスタイルに心惹かれていたのです。

そういうわけで、卒論といっても、生まれて初めて手にした馴れないワープロに四苦八苦したこと、提出の直前に突如故障して途方にくれていたこと、夜の静寂な図書館を初めて体験したことなどがぼんやりと心に残っている程度で、テクストの分析の手法や卒論の形式もほとんど身についていませんでした。ですが、それでも、自分で自由にテーマを選んで何かを考え、書くことはおもしろいなと感じました。その後、もう少しきちんと文化をめぐる多様な力学について考えてみたいと思い、今に至ります。そう思うと、卒論は自分で何かを考え、言葉にしていくための大きな第一歩だったのかなと感じています。

清水知子先生（89年比文入学）

日本・アジア領域

日本文学コース

住吉物語絵巻（下巻） 筑波大学附属図書館所蔵
筑波大学の図書館には、たくさんの貴重な古典籍が所蔵されています。この絵巻は、継子物の代表的な物語である住吉物語に美しい極彩色の絵が添えられたものです。

日本文化を支え続ける日本文学の魅力

日本文学は優に千年を超える長い歴史を持ち、それは世界の文学のなかでも大変稀有なものといわれています。なぜそれほどまでに我々は文学を大事にし、必要とし、魅了されてきたのでしょうか。こうした問いかけは、人がことばや物語とともに生きることの根源に触れる貴重な機会を与えてくれるはずです。

日本文学コースでは、さまざまな時代のさまざまなジャンルの作家や作品について研究することができます。まず概論や文学史で専門基礎知識を養います。続いて講読や特講では、具体的な作品をとりあげ、精読を行うための態度や方法を身につけます。演習では、受講生自身が文学研究を実践し、卒業論文へとつなげていきます。日本文学の魅力は歴史性・現代性のバランスの中で新たに発見され続けるものでもあります。本コースはそれを次世代へとつなげる総合的な人文力の養成を目指しています。

＼Point／

筑波大学の図書館には古典から近代の貴重な書籍があり、それらを使った授業もあります。たとえば実際に和綴じの本を手にとったり、変体仮名と呼ばれる特殊な文字を習得したりすることができます。文学館や美術館などで目にするくずし字が読めるようになるのです。

卒業論文作成では、自分自身で作家や作品を選び、研究テーマを見つけ、課題を発見していきます。これはとてもやりがいがあるもので、好奇心旺盛な人も、ストイックな人も、それぞれの立場から文学を学ぶ喜びを味わえると思います。

PROFESSOR

馬場　美佳
［日本近代文学、日本現代文学］

「Curiosity killed the cat（好奇心は猫をも殺す）」というイギリスの諺がありますが、“知的好奇心”ならば、比文の教員も学生も猫どころではないかもしれず…　みなさんもぜひ、猫をかぶらず好奇心を発揮しにきてください。

吉森　佳奈子
［日本文学史、日本古典文学］

『源氏物語』について、この物語が、後の時代の人々にどのようにうけとめられていたかということを中心に研究しています。ご一緒に人生棒にふってくださる方、大募集中です（イラストは、はじめて教えた学生が描いてくれたもので、わたしの宝ものです）。

日本とアジアにおける文化の諸相を文学・歴史・宗教・社会などに着目しながら体系的に学ぶ。

日本研究コース

(左)京都・祇園祭を見学する
(右)神社の石造物を調査する

日本列島の生活・文化と政治・社会を具体的な事例から見つめ直す

日本研究コースは、日本列島に暮らす人びとの生活・文化と政治・社会を研究対象とするコースです。具体的には、個別的な地域で実際に暮らす人びとの歴史・生活・政治・宗教・思想・教育・芸術などのさまざまな事例を、鳥の眼で考察するのではなく、各自の関心や問題意識にもとづき蟻やトンボの目で考察します。これらの考察を通じ、地域に生きる人びとの生活・文化・政治・社会の総体を、相互に比較しながら広い視野で多元的、複眼的に捉え明らかにしていきます。このような日本研究の学びは、国際的・民族的に流動的な現代社会において生じている諸問題に対し、柔軟な判断力をもって対応し解決する確かな社会力を有する、グローバルな人材の育成へといざないます。

＼Point／

日本研究コースでは、基礎的な知識や方法論を学ぶ講義のみならず、個別具体的な地域の生活・政治・宗教・思想を題材とする講義・演習と、日本列島に展開した農山漁村・都市の日常生活の場から、地域に根ざした諸問題を発見し研究する実験実習(フィールドワーク)が開講されます。とくに、重視するのは演習と実習で、学生自らが主体的に調査し、考えて発表し、互いに真剣に議論しあいながら、各自の卒業研究に向けて、独創的な視点や研究方法を磨いていきます。

PROFESSOR

石塚　修

日本の文学と食文化との関係について、茶や納豆などを中心に研究しています。「難しいことを易しく、易しいことを深く、深いことをおもしろく」(井上ひさし)、そのような授業や研究を目指しています。

伊藤　純郎

足元を見つめ、足元から問い直す歴史研究を行っています。近年は、陸海軍の航空特攻隊や満蒙開拓青少年義勇軍に焦点をあて、茨城・長野などの地域から、昭和戦前期の歴史の諸相を考察しています。

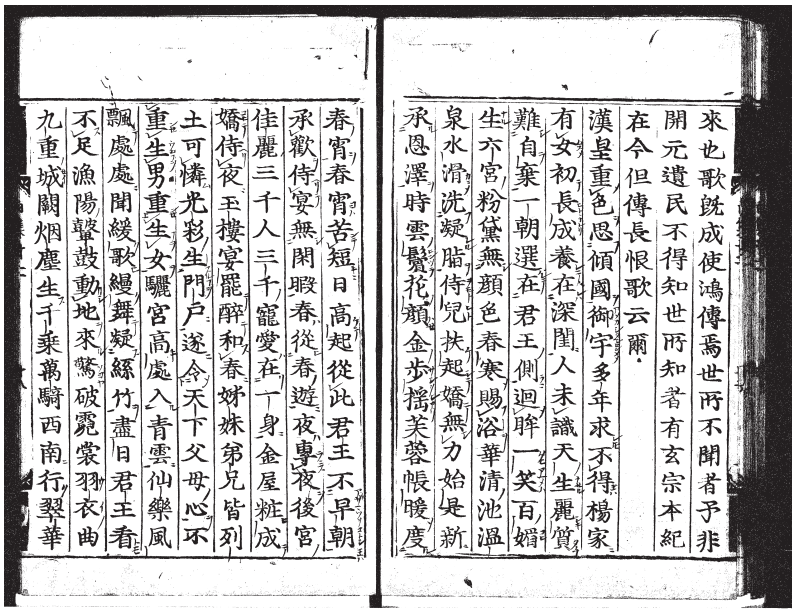
山澤　学

出身地栃木県日光をはじめ列島の各地を歩き、人間と社会の歴史（とくに江戸時代史）を宗教・信仰の世界から研究しています。最近は山形の出羽三山、京都の北野天満宮などの研究をまとめています。

地域文化研究領野

日本・アジア領域

中国文学コース



絶世の美女楊貴妃と玄宗皇帝との悲恋を情緒豊かに表現した白楽天「長恨歌」の冒頭。江戸時代に日本で出版された本で、墨で返り点や送り仮名がつけてある。高校で習う規則と少し違う。筑波大学図書館蔵。

よりよく生きる為の糧として古典作品を味読します。

中国文学の魅力は、懐の深さにあります。中国古典文学全体でいえば、人間が生きていく中で生じることについてはほとんどすべて誰かがどこかで作品にしていますから、考えるための題材が豊富です。一篇一篇についていえば、その作品ができるまでの文化をまとっているのが普通ですから、様々な深度での解釈が可能です。使われる言葉も一筋縄ではいきません。有名な杜甫の「春望」にある「三月」という２文字をどう捉えるか、「三ヶ月」なのか「陰暦三月」なのか、その違いだけでも、詩全体のニュアンスが変わってきます。当コースでは、作品の面白さにじかに触れて言葉に対する感性を磨き、人間に対する理解を深め、よりよく生きる道を模索していきます。

Point

まず、中国文学概論を受講して中国古典文学を学んでいくための基礎的な知識や技術を習得します。次に、講読や文学史で本格的に中国文学の世界に入っていきます。更に、演習で中国古典文学の専門性を高めます。この間、中国文学講読演習や、CEGLOC開設の中国語基礎のほか、日本・アジア領域の他コース・思想文化領域など他領域の科目などを必要に応じて受講します。最終的には、持てる力を総動員して卒業論文を完成させます。

PROFESSOR

稀代　麻也子
［六朝文学］

私の専門分野は、文系科目に興味無し！な人に説明するのは難しいのですが、日本で教育を受けてきた人には、「漢文だよ。時代的には『三国志』と唐詩の間。」と言うと通りはいいです。色々無視した説明ですが・・・。

アジア研究コース

アジア諸地域の文化、民族、宗教、政治、社会等について学び、考えます。

アジアはユーラシア大陸において、広大な面積、長くて古い歴史、多様な民族と文化をもつ多元的な地域です。日本はアジアに属し、日本とアジアの他の国々との間に不幸な歴史があったことが思い起こされますが、21世紀に入り、日本とアジアの周辺諸国との交流はますます緊密になってきました。今、私たちには、アジアの多様な現実を、現地の人々の立場に立って、現地の人々の生活、歴史的背景、価値観を理解しながら、共存協調していくことが求められています。アジア研究コースでは、中国、台湾、韓国、東南アジア、南アジア、チベットなどを主な対象とし、歴史的現代的な視点からアジアを把握し、諸問題を分析できる力を養うことを目標としています。

＼Point／

アジア研究コースでは、多様なテーマで講義や演習を開設し、学際的なアジア理解を目指しています。基礎になるアジア地域の言語（漢文、現代中国語、インド古典語、チベット語、韓国語）を用いた資料の解読にも力を入れています。また、英語の文献も多く用います。旅行、留学、調査などのために現地を訪れ、自分の問題意識を形成する学生が多く、卒業論文も個性に富んだものとなっています。

PROFESSOR

丸山　宏

歴史的・現代的視点から中国・台湾の宗教と民族を研究しています。道教と民間信仰の祭祀儀礼にかかわる写本を読むことに面白さを感じてきました。アジア研究を志望する学生の皆さんにはアジアのどのような文化現象でもよいですから、自由に興味関心をふくらませてほしいと思います。

山本　真

中国近現代史、とりわけ近代国家建設と社会変容に関する政治史、社会経済史の諸テーマ（具体的には政党研究、地域エリート研究、村落構造研究、社会組織研究）に取り組んでいます。毎年中華圏各地の図書館、公文書館に出かけ資料を閲覧しています。また農村調査にも参加し、多元的な視角から研究を行うことを心懸けています。

吉水　千鶴子

インドとチベットの仏教を研究しています。2,500 年前から現代まで続く長い仏教の歴史の中で、インドからチベットへの経典や思想の伝播の解明を目指し、また社会との関わりや現代的意義についても関心をもって研究をしています。文献資料を通して、時空を超えて遠い人々の声を聞き、その心に触れる楽しさを共有したいと思います。

近藤　隼人

南アジアの思想文化、とくに古典インドの思想や宗教を研究しています。授業では古典インドのヨーガや、あるいは現代にもつながる肉食の思想について、そしてガーンディーや印パ分離独立といった近現代インドの思想的、政治的動向についても扱います。

英米・ヨーロッパ領域

英語圏文学・文化コース

〈読み解く〉面白さと楽しさ

充実した英語力を養いつつ、英語圏の文学と文化についての理解を深めます。伝統的な英米文学研究とともに、文学理論・文化理論を踏まえて、小説・詩のみならず、映画、テレビドラマ、音楽、舞台芸術なども幅広く研究することができます。また、「アメリカ文学履修モデル」「イギリス文学履修モデル」「カルチュラル・スタディーズ履修モデル」「TOEFL550（iBT79）履修モデル」を示し、学生ひとりひとりの目標にかなった、しかも体系的な履修計画をたてることができるよう、配慮されています。確かな英語コミュニケーション能力と、英語を通じて異文化を深く理解する姿勢を身につけ、提携校への留学も視野に入れながら、学習計画を立ててください。

＼Point／

1・2年次対象の「文学論」および「研究」で基礎をつくり、2・3年次対象の「特講」で視野を広げ、3・4年次対象の「演習」では自分の研究テーマにそった授業を選択しましょう。また、高度な英語運用能力を養うための授業では、世界各国の大学院留学生がティーチング・アシスタントとして授業を補佐する少人数レッスンがあります。コースの授業で英語圏の文化への理解を深めつつ、それに裏づけられた本物の英語コミュニケーション能力を養ってください。

PROFESSOR

佐野　隆弥
［初期近代イギリス文学・文化研究］

ウィリアム・シェイクスピアを中心としたルネサンス期イギリス演劇を研究しています。イギリス文学を真摯に学びたい人はぼくの研究室までどうぞ。

中田　元子
［19世紀イギリス文学・文化研究］

授業では、ブロンテ、ディケンズ、ギャスケルなどの19世紀イギリス作家の小説作品や、同時代イギリスの女性の教育や職業についての雑誌記事や議会資料などの一次文献を読んでいます。

竹谷　悦子
［アメリカ文学・文化研究、ジェンダー研究］

アメリカ文学・文化、ジェンダー研究のほか、カナダのプリンス・エドワード島大学英語研修を担当しています。授業では、講義に続いて外国人留学生の大学院生TAを交えた英語のグループ・ディスカッションも行います。

アンドレ・ラフォンテーヌ
［映画研究、カナダ研究］

What can we learn about other cultures from watching movies? Can films, in fact, even tell us something about our own culture? And if so, how do they do it? In my classes we look at films and popular culture to investigate the values and ideas expressed through visual and narrative representations.

映画を観ることで他の文化について何を学べるでしょうか。映画は私たち自身の文化についても何か教えてくれるでしょうか。もしそうなら、どのように？　授業では、映画とポップカルチャーをとりあげ、視覚的表象・物語的表象を通じて表現されている価値や考え方を探ります。

英語圏・ドイツ語圏・フランス語圏に加え、広く欧米の地域文化圏を対象に、
文学・言語・歴史・宗教・社会などに着目しながら体系的に学ぶ。

ドイツ語圏文学・文化コース

日独学生交流会（バウムクーヘンの会）に集まった日独の学生たち

親しみやすい西欧、それはドイツ

21世紀に入ってドイツはますます存在感を増しています。文化の領域でも新しい発信が相次いでいます。ドイツ語はヨーロッパで最大の話者数を持つ言語で、学習者の数も増えてきました。

さまざまな政治的話題がクローズアップされることが多いドイツですが、実はドイツの社会は日本とよく似た親しみやすい社会です。とりあえず飛び込んで行くには最適な異文化社会です。むろんドイツ語を通じて西欧の重厚な知的世界に入っていくこともできます。ここには文学、哲学、音楽、美術、演劇、舞踊などの、皆さんのよく知っている人類の共通財産が数多くあります。

ドイツ語を学び、ドイツに親しむことは、ヨーロッパの正面玄関を通ることに他なりません。このコースでドイツを学び、ドイツを体験し、豊かな人生を送る基礎を作りましょう。

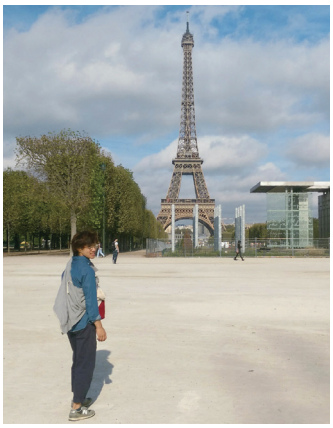
＼Point／

筑波大学で留学者数が一番多いヨーロッパの国はドイツです。ベルリン、ケルン、ボン、ボーフム、デュッセルドルフ、ハレなどの大学に交換留学したりバイロイト大学夏期講習に参加する学生がたくさんいます。比文にはドイツからの留学生もたくさんいて、一緒に受けられる授業もあるほか、日独学生交流の「バウムクーヘンの会」も毎週火曜夜に行われます。ドイツという新しい知的な窓を開き、ドイツ語を学んで、ドイツ語圏の文学や文化や社会について学んでいきましょう。

地域文化研究領野

英米・ヨーロッパ領域

フランス語圏文学・文化コース



（左）フランス語学研修後、パリにて
（右）モントリオール（カナダ）のノートル＝ダム大聖堂

仏語の文学作品や文献を読み、視野を広げる。

本コースではフランス語で書かれた小説・詩・批評・戯曲や文献を幅広く扱います。フランス文化が分からないとヨーロッパ文化が分からない、と言われているのはなぜでしょう。フランスはルネサンス期に古代ギリシア・ローマ文化から多くを学びつつも、17世紀にはアカデミー・フランセーズを創設し、国家を挙げてフランス語の辞書を編纂し、常に普遍性を求めてきたからです。ルイ14世の絶対王政の時代に古典主義の傑作が続々と生まれ、17世紀は「偉大なる世紀」と呼ばれています。その一方で、先住民族であるケルト人の文化も受け継いでおり、新しいところでは旧植民地のクレオール文化もあり、多様性をフランス語、合理性、共和国の理念という求心力で支えています。作品や文献とフランス語で直に接して、視野を広げましょう。

＼Point／

まずは1・2年次対象の「フランス語圏文学・文化概論I」でフランス文学史の全容をつかみ、2年次以降は「フランス語圏文学・文化講読I ～ IV」や「フランス語圏文学・文化演習I，II」の授業で、実際に様々な作品や文献と対決しながら考察を深めていきます。学内のサークル「クラブ・フランコフォニー」では、フランス語を話す留学生と交流することができます。留学に関しては、短期のフランス語語学研修（開設授業科目の枠内にあり、単位が取得できます）のほか、本学の協定校であるフランシュ＝コンテ大学、ボルドー大学、モントリオール大学などに長期留学する例が数多く見られます。

PROFESSOR

増尾　弘美
［19 ～ 20 世紀のフランス小説・批評、特にプルースト］

学生時代にプルーストの『失われた時を求めて』（日本語訳ですと、文庫本で 14 冊）を読んで、幅の広さ、奥の深さに圧倒されました。今もなお読み返すたびに、新たな発見があります。

欧米研究コース

欧米文化をその歴史的背景から深く理解する。

欧米の文化は、現代世界の基盤であり、近代日本のモデルともなってきました。しかしそれは単純一律なグローバル基準ではなく、多様な文化伝承、多様な歴史、それぞれの利害をもつ国の集合です。欧米研究コースには、地中海を巡る古代/中世の文化圏、大航海時代に世界中に拡大したスペイン文化圏、ヨーロッパの東からアジアに到達したロシア文化圏、また太平洋を巡って拡がった英米文化圏、などを専門とする教員が所属しており、大きな歴史的発展を動的に考えようとしています。それは、現代における経済面その他の急速な変化を理解することにもつながっています。

＼Point／

歴史上世界を動かしてきた数々の帝国とその文明圏について、各教員が欧米文化論、欧米文化論演習などを開設しており、興味のある地域や文化について毎年続けて受講することができます。各教員は語学教育も担当しており、勉強/研究に十分な語学力を身につけることも重視しています。留学や語学研修も支援します。また社会・地理歴史科及び英語科に対応する教職科目がおかれています。

PROFESSOR

加藤　百合

専門は比較文学で、日本の明治時代から日本の文学青年がどのようにどんなかたちでロシア文学を読んできたのか、翻訳受容の問題などを考えています。ロシア文学、そもそもロシア語が大好きです。欧米研究コースではスラヴ・ロシアの文化と歴史について授業しています。いっしょにロシア語のテキストを読みロシア文化の話をする方を待っています。

宮崎　和夫

グローバリゼーションの先駆けともいわれる大航海時代のスペイン帝国支配下で、搾取や抑圧が強化され異文化衝突が頻発する中で、時代の流れに不満を抱いたり、無関係に生きていた人々に興味を持っています。

津田　博司

イギリスおよび旧イギリス植民地の歴史を研究しています。イギリス帝国やコモンウェルスと呼ばれてきた地域のうち、オーストラリアとカナダにおいて、帝国主義や多文化主義がたどった歴史を主な対象としています。

佐藤　千登勢

アメリカ合衆国の現代史、特に 1930 年代と 1940 年代の社会経済史を専門にしています。人種やエスニシティ、ジェンダーなど、さまざまな観点からアメリカ社会を見ると、思いもよらない新しい発見が必ずあります。

秋山　学

専門は古典古代学です。元来ギリシア語・ラテン語学を専攻し、本学類でもこれら古典語を教えていますが、扱う対象は密教（インド古典語）や旧約聖書（ヘブライ語）に及ぶので、それらも含めて研究領域にしています。

地域文化研究領野

フィールド文化領域

文化人類学コース

社会の中で人間はどう生きているのか、過去との繋がりのなかで何を受け継ぎ生かしているのか、何を未来に渡そうとしているのか、現場から学ぶ。

文化人類学コースは「人間とは何か」を考えるコースです、と言っても漠然としすぎているかもしれません。「人間とは何か」はいろいろな切り口が可能な問いですが、このコースでは、自らの関心にもとづいて「フィールド」に飛び込み、そこで生きる人々と関わりあい、彼・彼女らの生き方やものの見方を理解することを通じて、あるいは過去から受け継がれてきた様々な文献を「フィールド」として、この問いに立ち向かいます。人はつねに、様々な関係性をつくりだし、その可能性と制約のなかで生きています。家族から地域社会、国、世界へと、あるいは過去から未来へと広がっていく、そうした関係性の網の目が、どのように織りなされ、そのなかで人はどのように形作られているのか。一緒に考えてみませんか。

＼Point／

講義では現場を見、考えるための「構え」や「視点」を身に着けるとともに、文献や資料をいかに読むかを学び、実習を通じてフィールドワークの練習をします。卒論では学生個々人の興味・関心にもとづき、具体的な対象(地)、資料を定めて調査をします。それぞれの異なる視点をぶつけあうゼミは、刺激的ながら和やかな雰囲気です。また、文化人類学、民俗学、歴史学を専門とする教員から構成されるコースのため、間口が広く、多様な角度からの指導を受けることができます。

PROFESSOR

徳丸　亜木
［民俗学］

民俗学は、人びとが言葉や行為、あるいはモノとして伝えてきた伝承的な生活や行事を地域でのフィールドワークを通じて記録し、そこに示される私たちの伝承的な心意やその現代的なありかたを考える学問です。文献からの知識とみずからのフィールドワークでの発見とを重ねて、私たちが伝えてきた民俗について考えてみませんか。

木村　周平
［文化人類学］

これまで中東のトルコ共和国と日本国内でフィールドワークを行ってきました。人々の暮らしや文化と自然環境、社会制度や科学技術の関わり合いとして現れる災害について研究しています。

塩谷　哲史
［歴史学］

おもに中央アジア、中東、ロシアでの文献調査、フィールドワークを通じて、中央ユーラシアのダイナミックな歴史の動態と、乾燥地域における人と環境とのかかわりの特徴とは何かについて考えています。

日本・世界における地域文化の多様性をフィールドワークによって明らかにし、
人間と場所のかかわりを通して「人間とは何か」を体系的に学ぶ。

文化地理学コース

場所・空間・地域・環境・生態・景観といった言葉をキーワードとし、フィールドワークを通して世界の諸地域における人々の 生活・文化の諸相を明らかにします。

文化地理学の魅力は、研究対象が身近に存在することにあります。地表面に生起する政治、経済、社会、文化などあらゆる現象を文化地理学的な視点から問題にすることが可能です。文化地理学は、地図や空中写真、行政統計、古文書などの多様なデータを駆使し、野外での観察や聞きとりといった現地調査（フィールドワーク）を武器に、文化現象を分析していく学問であるといえます。文化地理学コースでは、文化研究の一つの手段（武器）として、地理学的なものの見方・考え方・スキルを修得し、広く社会で活躍する人材を養成することを目的としています。これまで金融・保険・運輸・通信・観光・マスコミ業界や地方公務員として活躍する人材を輩出してきました。また大学院（生命地球科学研究群地球科学学位プログラムほか）に進学して、修士号・博士号を修得し、研究者・教育者として活躍する先輩方も多くいます。

＼Point／

1・2年次では、学問上の基本的な概念の理解および研究手法の修得を目指しています。講義と実習を通して、文化地理学のモノのみかたから、研究資料の収集方法、GIS（地理情報システム）を用いた分析手法、パソコンによる主題図作成にいたるまで、懇切丁寧に指導します。3年次からはゼミに所属し、専門的なトレーニングをします。フィールドワークに基づく徹底的な実証研究には定評があり、筑波大学は日本の地理学をリードする存在になっています。先輩・後輩のつながりが強く、教員・学生一体となった懇親の場が多いのも特徴です。文化地理学コースでは濃密な学生生活を保証します。

PROFESSOR

松井　圭介
［文化・宗教地理学　観光文化論］
地理学は空間・場所と人間とのかかわりを探究する学問です。『日々旅にして旅を栖（すみか）とす。』松尾芭蕉ではありませんが、一緒にフィールドから人間の生活文化を考えてみませんか。

森本　健弘
［農業・農村地理学　地理空間情報の活用と地理情報システム（GIS）］
環境や土地を人が利用する仕方、そこに込められた努力を、地理学のツールで探求してみませんか。

久保　倫子
［都市地理学、ハウジング・スタディーズ、北米地誌］
文献研究やフィールドワークを通じて、一緒に地理学の奥深さと楽しさを味わいましょう。

表現文化領域

テクスト文化学コース

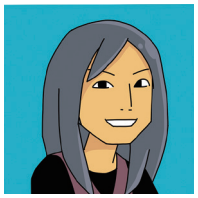
地域の区分を越えた文学研究や大衆文化研究をします。

テクスト文化学コースでは、テクスト――いわゆる文学作品ばかりではなく、映画やマンガなども含む、包容力に富む概念です――がどのように生じてくるのか、そしてどのように変容していくのかといったことに注目して、表現文化を体系的に学ぶための教育を行っています。その際、一つの言語や文化を詳しく掘り下げるというよりは、文学理論や比較文学、文化研究などの手法を用いて、さまざまな方面からテクストを読み解くことを目標にしています。こうした学修のなかから、あなたも自分独自の問題意識を磨き上げ、卒論に結実させてください。文章を読んだり書いたりするのが好きな人や、いろいろな作品をじっくり分析したい人に向いたコースです。

Point

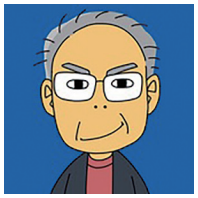
世界の文学を比較して論じたり、ジャンルを超えて文学や映画やマンガの作品を総合的に分析したりします。ほとんどが少人数のクラスで、学生どうしが密度の濃いディスカッションを頻繁におこないます。発表の機会も多くありますので、自分なりの徹底した作品の読み込みなど披露してください。教員の使用可能言語が英・仏・伊・独と多彩なのも特徴。授業補助役の大学院生として、世界各地からの留学生と出会う機会もあります。

PROFESSOR



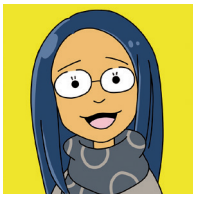
清水　知子
［文化理論、メディア文化論］

現代社会におけるメディア文化を中心に政治と芸術の交錯点について研究してきました。最近は芸術とエコロジーについて、とくに動物、植物、機械など、「人間」とは異なる視点から人間と世界の関係を捉え直すことに興味があります。



齋藤　一
［文学理論］

19 世紀末～ 20 世紀初頭の英語圏小説研究（ポストコロニアル批評）から出発して、「英文学学」（仮）――近現代の日本における「英（米）文学研究」の社会・歴史的意義の探求――にたどり着きました。

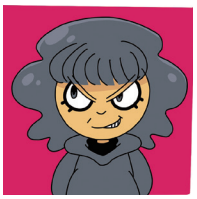


青柳　悦子
［文学理論・フランス語圏文学］

通常の論理とは異なる、文学特有の思考法や価値観に興味を持っています。文学を通じて人間の考えや感性の可能性を探るのが好きです。また最近は、北アフリカのとくにアルジェリアの文学や文化に惹かれています。

平石　典子
［比較文学］

近現代において、異文化との接触がもたらした新しい文学表象について考えています。ひとつの物語を「異なる文化」「異なる言語」という視点から読み直すことで世界が形を変えるさまを、みなさんにも体験してほしいです。



吉原　ゆかり
［文化研究］

シェイクスピアがマンガにされるってどういうんだ？ロミジュリな映画『ウェストサイド物語』によると、冷戦アメリカではコミックスを読むと不良になるとされてたらしい、などを研究してます。

地域の限定を超えた文学や多様な大衆文化、美術・映像・音楽などの
表現文化、それらをささえる社会理論や思想を広く探求する。

文化創造論コース

さまざまな芸術・文化創造のダイナミズムを、現代の脱領域的な理論・思想に立脚して幅広く学びます。

文化創造論コースは次の三つの視点から芸術・文化創造を学生の皆さんと一緒に研究し、理解していきます。

1）絵画・写真・映画・音楽・文学・マンガなどの芸術・表象文化のさまざまな営みを、幅広く考察し、分析します。
2）文化創造を現代の脱領域的な理論・思想（ポスト構造主義、ジェンダー理論、文化研究など）に立脚して考察し、文化創造のダイナミズムを明らかにします。
3）社会と文化創造との実践的な関係について考察し、また、学生の皆さんが文化創造の実践的な現場に自ら参画できる機会を作っていきます。

以上の三つの視点から、文化創造とその意義を多角的に分析し、理解します。

Point

文化創造論コースは、学類の改組にともなって、学生の皆さんと新しい試みを行っていくために誕生しました。芸術・文化創造を、現代の脱領域的な理論・思想に立脚して幅広く学べるコースです。また、筑波大学では唯一、音楽関連の授業を開設しています。

PROFESSOR

江藤　光紀

［近現代の芸術思想（美術・音楽）、劇場研究・万博研究、表象文化論］

像や音に対する感性を研ぎ澄ませ、芸術を通じて主体的に社会にコミットしたい人をお待ちしています。

馬籠　清子

［musico-literary studies（音楽・文学研究）、モダニズム文学］

丁寧な分析と柔軟な発想を期待します。

小川　美登里

［フランス文学、芸術批評、ジェンダー］

フランスを中心とする文学や批評、芸術論（音楽、映像）、翻訳などに興味を持っています。文化を学ぶことは広大な海を泳ぐようなものだと思いますので、どこかでみなさんの感性や情熱と出会うことができればうれしいです。

佐藤　吉幸（嘉幸）

［フランス現代思想、社会理論］

授業では、フーコーやドゥルーズなどの思想を取り上げ、現代社会の諸問題に結びつける読解を試みています。知的好奇心の旺盛な皆さんとやりとりできることを楽しみにしています。

吉野　修

［表象文化論、フランス現代文学、写真論］

驚きと喜びの発見としての研究を目指しましょう。

ワンプラネット文学・文化関係学コース
One-Planet Relational Studies in Literature and Culture

"As each has received a gift, employ it for one another, as good stewards of our world."

"One-Planet Relational Studies in Literature and Culture" offers a new approach to research in literature and culture for students who are interested in the future of our planet, in understanding our globally shared problems and in finding creative solutions. The program focuses on global crises issues such as Global Warming, Aging Society, Refugee and Migration, Gender Equality, Discrimination, Poverty, Plastic Pollution, Nuclear Hazards, and Hunger, and reviews counteractive concepts such as Resiliency, Sustainability, Mindfulness, and Stewardship. The course uses English as our global language for international communication and co-operation and offers students the chance to come together and engage in English-based international research and communication.

＼Point／

Enjoy an English-language study and research environment with lots of international contacts, while improving your English at the same time. Meet friends who not only share your interests but also your commitment to a better and sustainable world. Participate in fieldwork and exchanges with the whole world. Create your own research interests. Combine your studies with other classes in 比較文化学類, for example: English-language classes from 英語圏文学・文化コース or other classes from 表現文化領域.

Be at home in the world!

このコースでは、たくさんの国際的な触れ合いを通じて、英語学習と研究の環境を楽しむとともに、英語能力を向上させます。よりよく持続可能な世界へのあなたの興味、そしてそれへの関わりを、ともに分かち合える友人たちと出会えます。フィールドワークや全世界との交流に参加することで、自分自身の研究関心を生み出します。比較文化学類の他の授業、たとえば、英語圏文学・文化コースの英語での授業や表現文化領域の授業とあなたの研究を結びつけることができます。

世界に精通しましょう!

PROFESSOR

Herrad Heselhaus（ヘラト・ヘーゼルハウス）

［ワン・プラネット文学、ワン・プラネット文化学］

In the "One-Planet" course, I teach the relationship between global (local) crises and culture, literature, and philosophy. My teaching and my research are driven by the desire to better understand humankind and to find ways to create a more just and sustainable world.

Check out my website at: https://herradheselhaus.weebly.com/about.html

「ワンプラネット」コースで、グローバル（ローカル）な危機や文化、文学、哲学の関係について教えています。私は教育や研究を、人類についてよりよく理解し、より公正でサステナブルな世界を創造する方法を見出したいという強い願いのもとに進めています。

私のウェブサイトをチェックしてみてください。

https://herradheselhaus.weebly.com/about.html

文化科学領域

先端文化学コース

各時代の先端的な思想や理論を踏まえて現代文化について学ぶ。

〈現代〉の世界において、文化、芸術、政治などのあらゆる事象がめまぐるしく流動し、私たちは未知の出来事やイメージに遭遇しています。先端文化学コースでは、既成の学問や理論に頼らない〈自由〉な発想で、〈現代〉の〈切っ先〉に現れる文化現象を捉えます。そのためには、これまで結び付いていなかった領域や時代を、大胆に横断することも必要でしょう。また文化の根源を掘り下げ、その〈自然〉や〈記憶〉を目覚めさせることも必要でしょう。先端文化学コースは、このように〈現代〉を捉えるための専門知識や問題解決能力を養成します。

Point

本コースでは、みなさんの自由な発想を学問の言葉にするために〈文化摩擦論〉〈表象文化論〉〈文化記憶論〉〈イメージ人類学〉〈身体・感性文化論〉などを専門とする教員が、ひとりひとりの自由な発想を受けとめて、ていねいに指導します。世界規模の大問題でも、ちょっとした心のわずかな動きの問題でも、本コースでは一緒に考えていきます。卒業論文の計画を、学生同士で議論する機会も設けられています。

PROFESSOR

対馬　美千子
［表象文化論、文学への思想的アプローチ］

現代文化・社会とのかかわりで現代の作家や思想家（例、ベケット、アーレント等）を読んでいます。授業では学生の皆さんから生まれる思考やことばに耳を傾けることを心がけています。

濱田　真
［近代ドイツ美学・芸術論］

ドイツを中心にヨーロッパの近代から現代にいたる各時期の文化の諸相を美学・芸術論的観点から考察し、「先端文化」の問題を文化記憶の問題と関連づけて考えています。

廣瀬　浩司
［フランス思想・現象学］

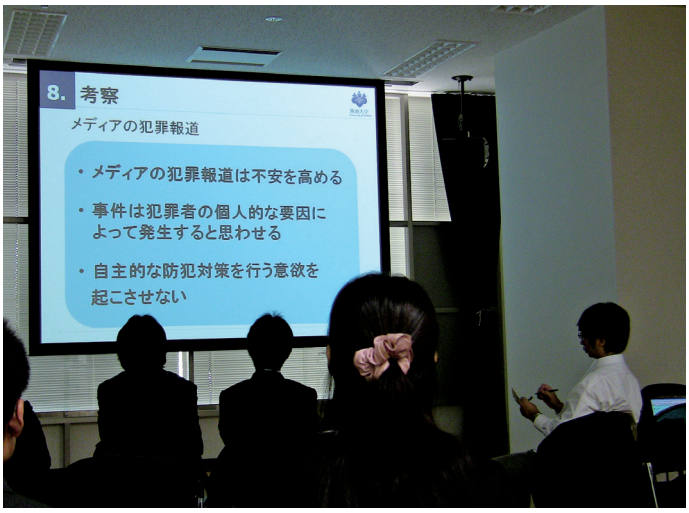
メルロ＝ポンティの身体論・生命論から出発して、こころの病理や芸術、社会の問題にどのような解決をあたえることができるかを考えています。ちょっとした感性の気づきを学問のことばにするお手伝いをします。

山口　惠里子
［イメージ人類学、イギリス美術］

イメージはどのように現れ、どのように受容され、どのように伝えられるのか。美術史と人類学の接続したアプローチでこの問いを追究しています。主なフィールドはイギリスのアートシーン。時代のエッジの上を歩いています。

生命・身体文化、メディア、ジャーナリズムなどをキーワードに、
人間社会の諸問題について複合的な視点から探究する。

情報文化学コース



（左）メディアに関する研究発表会
（右上）授業風景
（右下）８Kスーパーハイビジョンの美しい映像

情報化社会の実相を読み解く

太古の身ぶり、手ぶりに始まって、高度に発達した現代の情報メディアを介したコミュニケーションまで、研究対象は複雑かつ多岐にわたります。「コミュニケーション」という言葉自体、多義的ですが、情報文化学コースでは、「情報」「メディア」「マスコミ」「ジャーナリズム」「大衆社会」などをキーワードに社会科学的・人文科学的アプローチによって情報化社会の実相を分析し、そこで提起される問題をどう捉えるか、考える道筋や方法の修得を目指します。知的好奇心の旺盛な学生諸君との出会いを楽しみにしています。

＼Point／

メディアに触れずに一日を過ごさないことはほとんどないでしょう。そのような現代の情報社会を読み解くうえで、情報文化学特有のものの見方や考え方があります。「情報文化概論」や「映像文化論」などの講義科目や「コミュニケーション論演習」や「情報社会論演習」といった少人数科目を通してそれを習得していきます。また、勉学は勿論のこと、サークル活動に、アルバイトにと多忙な毎日が続くはずです。そうした日々の明け暮れのなかにあって、現実や社会に対する強い関心をぜひ持ち続けてほしいと思います。みなさんが取り組むのはなによりもいま社会で生起するアクチュアルな問題であるからです。

PROFESSOR

海後　宗男
［デジタル・デモクラシー、市民参加、非伝統的安全保障、リスク・コミュニケーション］

最近は市民参加と SNS 活用の実証的研究を行っています。

白戸　健一郎
［メディア史、メディア文化論］

・知を楽しむこと
・文化への好奇心を持ち続けること
・物の背後にある時間と思いを想像すること

思想文化領域

現代思想コース

Tシャツを着るように哲学をしよう♪

いろんなことを考えるのが好きな人に、めちゃめちゃ楽しい哲学・思想コース。このコースはたぶん日本中でここにしかない、生きた哲学の場所。特徴は４つ!!

(1) 昔ながらの狭い体系的な哲学研究に閉じこもらない!!　ここでは、芸術・文学・映像・歴史・宗教など、自分の好きな分野を組み合わせた「マイ・プログラム」で深く深く学べる。

(2)「哲学者について学ぶ」だけじゃない!!　ここでは「自分の考えたいこと・知りたいこと」(例えば「友達とは何か」「幸せって何か」「戦争って何か」)、つまりあなたの「マイ・テーマ」を自由に掘っていってOK。

(3)「本を読んで勉強する」だけじゃない!!　ここはみんなで話して、自分の言葉で、自分の実感のある哲学を深めていくところ。例えば「哲学カフェ」っていう授業がここにはある。文系・理系の壁、先生・学生の壁を越えて、多様な人が毎週ワイワイガヤガヤおしゃべりをして哲学を深めていく。そんな超満員の楽しい授業があるのもこのコースの特徴。

(4) ここは「現代思想コース」じゃない!!　実は、ここで学べるのは、現代哲学、現代倫理学、中国思想、東洋思想。四人の面白い専門家がいます。出会うだけでも世界が広がるかも（笑）。

学問は楽しい。そして哲学は本当に面白い。そういう濃い４年間を過ごしたい人に。
ここの先生たちがおしゃべりをしてるYouTube、のぞきに来てね♪

Point

「哲学カフェ」っていう、コーヒーを飲みながら芸術系や理系の人も来ていっぱい話し合う〈ウロコぼろぼろ〉系の「授業」も普通にある。ハイデガーやヴィトゲンシュタイン、老子もカントも、ハーバーマスだってどこまでも深く読める。
しかも「わかる!!!」し感動する！　映画や音楽・就活や恋愛・死と生・みんな真剣な哲学のテーマです。「哲学って面白い!!!」「大学来てよかった〜(T.T)」ってみんなハマってます。本当に心の底から楽しくて、そして自分が成長できること。
それが大学でやる真の「学問」です。濃い四年間、保証します。

PROFESSOR

五十嵐　沙千子
［現代倫理学、哲学カフェ、ハイデガー、ハーバーマス、シェリング］
哲学は面白く、人生もまた面白いです。モットーは「楽しく!」。

井川　義次
［哲学（中国哲学・比較哲学）］
「天我を生ずるは必ず用あるなり」(李白)。天が私をこの世に生んだのは必要があるからだ、というモットーで日々生きています。

嚴　錫仁
［東アジア思想史］
現代につながる東洋思想の魅力を勉強します。

橋本　康二
［分析哲学］
分析哲学は直観と論理によって世界を解明していきます。

思考・認識・言語・論理・倫理／社会・実践・経験・歴史・フィールドなどを
キーワードにして、哲学や宗教を学ぶ。

比較宗教コース

（左上）比較宗教演習の様子、（左下）笠間稲荷神社での実習の様子
（右）常陸国出雲大社での実習の様子

世界の諸宗教を精神性、思想、歴史、社会の観点から学ぶ

世界の諸宗教を学ぶことが、従来になく、重要になってきています。宗教は人類史に重要な軌跡を残しているところから分かるように、人間の精神性の深みと関わっており、芸術、文化、経済、政治などとも関係してきます。宗教を通して人間は神々等との繋がりを見いだし、宗教経験を通して、利他の心で共同体の支援も行います。比較宗教コースは、宗教を人間現象として捉え、比較研究を通して、学びます。実習を通して、今日の生きた宗教にも触れながら、学びます。

＼Point／

比較宗教コースでは学年を追って専門的知識が身につくようにカリキュラムを編成しています。概論では、世界の諸宗教の基礎知識、宗教学の理論、方法を学びます。演習では、最近の研究動向を学びながら、諸宗教の主要な聖典等に触れ、宗教学の多様なテーマを学びます。講義では、宗教現象をより深く理解していくために、最近の研究動向も含めて、学びます。また、実習を通して、宗教の実際を見て学ぶことも重視します。

PROFESSOR

木村　武史

［比較宗教史、先住民族宗教、神話学、宗教と環境・技術］

世界の諸宗教を勉強するコースです。私の研究領域は、先住民宗教、神話、北米や日本の宗教ですが、他の宗教についても調べていますので、興味のある宗教、神話、儀礼等については何でも聞きにきてください。

PROFESSOR's COLUMN

#01

どんな研究？ 秋山学先生

学生の頃は西洋古典学を専攻し、古典ギリシア（希）語やラテン（羅）語の文献をひたすら読んでいました。その後サンスクリット（梵）語やヘブライ語を勉強し、また在外研究でハンガリーにおける古典受容と宗教伝承の関係を調査しました。西洋文化を理解する際には日本語の感覚が関わるため、日本語と語順が共通するハンガリー語に親しめたことは有意義だったと思います。現在は、欧米研究コースでイタリア語講読や西洋古典文学史を、専門外国語として希・羅語を担当し、自分の研究分野を「古典古代学」と呼んでいます。2010年には、本学附属中央図書館の和装図書コーナーに所蔵される悉曇 (シッタン；日本に伝わる梵語学) 関係の蔵書を調査し、特別展で一般公開したのですが、その際、江戸期の高僧・慈雲尊者飲光（1718-1804）による最晩年の直筆本が、本学の前身校である東京師範学校の蔵書とされて現在に至っていることを発見しました。

#02

どんな授業？ 吉原ゆかり先生 テクスト文化学演習 I

シェイクスピア『ロミオとジュリエット』の家どうしの対立物語を1950年代アメリカでの人種対立の物語に置き換えた、West Side Story（1961）を素材に、ファッション、音楽、コミックスなど、ポップ・カルチャーのもつ意味について考えています。

ティーチング・アシスタントは、大学院で思想・宗教的視点から「ゆるキャラ」を研究中のAlishaさん。「ゆるキャラ」は「かわいい」？ West Side Storyの若者たちについて、「かわいい」っていう？ などについて、TAさんと英語で語り合って、英語コミュ力育成も目指し中。

つぎは、場面が現代横浜のTVシリーズ『未来世紀シェイクスピア』「ロミジュリ」エピソードを素材に、ラップなど、日本の現代若者文化について考えていく予定。

#03

どんな研究？ 木村周平先生

僕は文化人類学という学問を専攻しています。これは世界の様々な社会や文化のフィールドワークを通して「人間とは何か」を考えるという学問です。僕はそのなかでも、自然と社会との関わり合いとしての「災害」をテーマに研究してきました。

大学院生の時は「文明の十字路」として知られる（実は日本と同様に地震国でもある）トルコのイスタンブールという町で、2年近くフィールドワークを行いました。

2011年からは東日本大震災の被災地である岩手県沿岸部でも継続的に行き、学類生たちとも一緒に調査を行っています。本や論文を書くだけでなく、できるだけ地元の方々とも成果を共有できるよう、2015年には共同研究者と現地での展示会も行いました。

現地での展示会の様子

ここが知りたい!!
Q&A

比較文化学類全般について

Q「比較文化」とは何ですか？

A　文化と聞くと、絵画、音楽、教会建築、文学作品などをすぐにイメージしますが、文化は、こうしたものばかりでなく、人間の生活様式全般を含んでいます。つまり、文化には、「食」「旅」「歴史」「マスメディア」「コンピュータ」など、人間のあらゆる営みが含まれています。

「比較文化」とは、それらを「比較する」ということになります。ただ「比較」は、いつも何かと何かを具体的に比べなければならないということではありません。むしろ、「比較」は、多様な興味・関心を持っている皆さんが、学類の提供する幅広い学問分野を自由に履修する中で自然に生じてくるものです。つまり、たとえ対象が一つであったとしても、それを、文学的に、歴史的に、地理的にと、様々な観点から考えることで、知らずに比較という作業を行っているのです。

Q所属する領域／コースはどのようにして決めるのですか？

A　所属領域／コースの決定の仕方については、入学したときからこれをやりたいと決めている人もいれば、入学後に授業などで新しい学問に触れて、興味を持った領域／コースに進む人もいます。

Q人文・文化学群の人文学類との違いについて教えてください。

A　二つの学類は、一見すると似ているように見えます。実際、一部の専門領域には連携して行っているものもありますが、以下の点で異なっています。

1．人文学類には、哲学、史学、考古学・民俗学、言語学の4つの主専攻があり、それぞれがさらにいくつかの＜コース＞に分かれています。それに対して、比較文化学類は１つの主専攻しかありません。つまり、人文学類と違って、比較文化学類は、どの領域／コースに属したとしても、比較文化という一つの研究を行うことができるように設計されているということです。

2．文学は比較文化学類でのみ学べ、言語学は人文学類でのみ学べます。たとえば日本文学を勉強したい場合、比較文化学類の「日本・アジア領域」の「日本文学コース」に属すことで古典文学や近代小説を学ぶことができます。

3．比較文化学類では、英語を始めとした外国語の学習に力を入れています。その基本的な方針として、原語で文献を読むことができる能力はもとより、実際に使える生きた語学の習得に力を入れています。

4．比較文化学類では、人文学類にはない表象文化（美術・映像・音楽など）、生命・身体文化、さらには、情報文化やメディア、ジャーナリズムなどの専門領域を豊富に備えており、これらの授業科目を通じて現代の文化状況のアクチュアリティに迫ります。

5．人文学類と重なっているように思われる、哲学、倫理学、宗教学などの専門領域についても、人文学類では文献研究を中心に体系的に学修するのに対して、比較文化学類では、こうした学問を社会に向けて開いていく努力を行うと共に、フィールド（現場）から考えていこうとしています。

履修や試験について

Q試験はどのように行われるのですか？

A　原則として学期完結で授業が行われ、春・秋各学期の終わりに試験期間が設けられています。評価については、担当の先生によって多少の違いはありますが、たいてい試験やレポートの成績で決まります。

Q他学群、他学類の開設授業科目は履修できますか？

A　できます。

学類の枠を超えた履修に対する制限は、

ほとんどありません。履修した単位は「関連科目」として、一定数の科目について卒業に必要な単位数の中に算入されます。

Q領域やコースをまたがって履修できますか？

A　もちろんできます。

これは学部・学科というシステムを取っている大学との大きな違いといえるかもしれません。領域で要求される最低限の単位を取りさえすれば、各人の関心によって授業を選択し、自分なりのスタイルで勉強を進めていくことができます。

異なった専門の授業で会った先生や学生に刺激を受けることも多いでしょう。

Qクラス制度があると聞きましたが？

A　入学時に20人ずつ３つのクラスに分かれ、１年次の春学期には「フレッシュマン・セミナー」というセミナーを履修します。大学にまだ慣れない時期に、履修方法から生活の細々としたことに至るまで、そこで会う友達と情報交換できます。クラスで出会う友達は、専門とは必ずしも関係ないので、大学に慣れるために一緒に苦労した仲間として、逆に長くつきあえる間柄にもなるようです。

Q先生との関係は？

A　比較文化学類の場合、教員約50名に対し一学年の学生数は約80名です。これは他大学よりも恵まれた環境といえるでしょう。少人数の授業も多く、また卒業論文の指導もかなり丁寧に行われています。他大学の大学院などに進学した人の中には、そこでは先生とあまり交流出来なくて寂しいという感想をもらす人もいるくらいです。

Qフィールドワークについて教えてください。

A　比較文化学類の卒業論文には、フィールドワークに基づくものが少なくありません。とくに「文化地理学」「文化人類学」「日本研究」「比較宗教」の各コースには、その基礎を学ぶ授業が設けられています。ここでは、フィールド文化領域の文化人類学コースについて紹介しましょう。

文化人類学コースの場合、フィールドワークはもちろん学問的な調査なのですが、それだけでは済まない、多様な経験をすることになります。 最初は言葉もわからず、慣れない生活にとまどい、孤独と不安に襲われることになります。 やがて、現地に生きる人々と一緒に食事をし、儀礼に参加し、田畑を耕しながら、現地の社会生活に徐々に慣れていきます。 ときに、複雑な人間関係のトラブルに巻き込まれたり、病気に苦しめられたりすることもあります。 こうして、人々とともに泣き笑いを繰り返し、日々を過ごしていくうちに、人々のもつ知識や言葉に表せない観念を少しずつ学び取り、さらには身体感覚までも身につけていくのです。

Q外国人の先生はいますか？

A　現在、比文専任の外国人教員は韓国人とドイツ人とカナダ人の三人の先生です。比文では、二人が英語による授業を行っていますし、「専門外国語」も、英語、ドイツ語、フランス語、スペイン語、ロシア語、中国語、朝鮮語を母語とする外国人の先生が担当しています。このほか外国人講師を招いての講演会も開催しており、外国人の先生から学ぶ多様な機会があります。

資格や留学について

Q教員免許の取得について教えて下さい。

A　比較文化学類では、国語、社会（高校は地歴、公民）、英語の教育職員免許状が取得可能です。くわしくは、本学メインホームページの「教職課程」（http://www.tsukuba.ac.jp/education/tt-programs/index.html）等を参照して下さい。

また学芸員、司書教諭の資格を取ることも可能です。

Q語学力をつけたいのですが、比較文化学類ではそのような授業はありますか？

A　比較文化学類では語学をとくに重視しています。英語と初修（第２）外国語について、３年次まで専門外国語の授業を設けており、ディベートやライティングなど生きた語学力を高めることができま

す。外国人教員の授業もありますのでコミュニケーション能力を養うことができます。ドイツ語・フランス語・中国語・ロシア語・スペイン語・朝鮮語に加えてギリシア・ラテン語・インド古典語を含めた、初修外国語の授業も充実しており、チベット語やイタリア語も学べ、学習の刺激になります。比較によって、英語だけではわからないことが見えてくるからです。演習などで外国語の論文を読めば、歯ごたえのある文章を読みこなす力を高めることができるでしょう。また比較文化学類では現代文化や諸地域の問題への関心を重視していますから、それによって、たんなる機械的な学習にとどまらない、アクチュアルな語学学習の動機を高めることができるでしょう。

Q留学制度はありますか？

A　カナダ・中華人民共和国・マレーシア・オーストラリア・エジプト・アメリカ・ドイツ・ポーランド・ロシアなどの大学と交流協定を結んでいます。また交換留学制度がなくても、イギリス・アメリカ・フランス・スペイン・カナダ・韓国・トルコなどさまざまな国へ自発的に留学する学生がかなりいます。

くわしくは、本誌の「留学」のページ（グローバル・コモンズ 電話029-853-7420、7428）、比較文化学類が発行している「留学ハンドブック」（学類ホームページよりダウンロードができます）、本学メインホームページの「海外留学を希望する方へ」（http://www.tsukuba.ac.jp/campuslife/go-abroad-stay/index.html）等を参照してください。

勉強の環境について

Qインターネットは使えますか？

A　インターネット利用を助けるため、筑波大学では、自由に利用できるパソコンを図書館、学術情報処理センター、比較文化学類のコンピュータ室など多くのところに置いています。学生は誰でもメールアドレスをもらえ、ホームページを作ることができます。この環境を利用してみなさんもさまざまな情報を得たり、メールを交換したり、情報を世界に発信したりすることができます。また学生宿舎には各室にLANが引かれています。

Q図書館は充実していますか？

A　筑波大学の附属図書館は他大学に比べてもとても充実していて使いやすく、授業のレポートはもちろん、卒業論文を書くまで、まず困ることはないでしょう。洋書や貴重書なども多く、むしろ蔵書が充実しすぎていて、選べなくて困るくらいです。自宅からでもインターネットで蔵書検索ページにアクセスすれば、キーワードで簡単に検索したり、貸し出しを予約したりできるので便利です。検索をはじめ、図書館を使いこなすためのさまざまな手段については、しばしばガイダンスが行われ、また先輩や教員もていねいに教えてくれるでしょう。貴重な古典籍や過去の新聞なども、マイクロフィルム・電子データだけでなく原本を見ることができます。詳しくは筑波大学附属図書館のホームページ（http://www.tulips.tsukuba.ac.jp/lib/）を参照してください。

サテライト室でのオリエンテーション

生活の環境について

Q 学生宿舎について教えてください。

A 筑波大学では、ほとんどの１年次生が入居できるだけの学生宿舎を、キャンパス内に用意しています。筑波大学の宿舎は、いわゆる「寮」とは違って、管理は学生自身に任されています。いわば大学が提供してくれるアパートのようなもの。門限はありません。

Q 車がないと不便だと聞いたのですが。

A かならずしもそうではありません。大学周辺には、大きなスーパーもあり、飲食店なども多いので、自炊をしない人でも心配はありません。学生食堂で夕食をとることもできます。

学内ならば移動は自転車ですみ、低額のバスも通っています。周辺の地域から、バスなどを利用して通っている人もいます。

Q アルバイトはどうやって見つけるのですか？

A 一般的なものから家庭教師、塾講師に至るまで、さまざまなアルバイトを大学で紹介しています。また先輩などから紹介される人も多いようです。

Q サークル活動にはどのように参加するのですか？

A 入学時のオリエンテーションなどで、先輩たちがくわしく説明してくれます。また大学からも、公式のパンフレット『課外活動団体紹介誌』が渡されます。全サークルについてそれぞれ活動している曜日と時間、場所などとともに、活動内容が紹介されています。ただ、大学が認めていない、問題があるサークルが本来の目的を隠して勧誘することもあるので、十分に注意してください。

Q サークルはどこで活動しているのですか？

A 文化系・体育系・芸術系の三つのサークル会館と呼ばれる建物があり、そこを拠点としている団体が多いです。ほかに一般の教室を用いたり、運動の場合は体育施設を用いたりすることもあります。また学外の施設を利用している場合もあります。

学生組織紹介
Student Organization Introduction

- ▶全学学類・専門学群・総合学域群代表者会議
- ▶クラス代表者会議
- ▶新入生歓迎委員会
- ▶オープンキャンパス委員会

全学学類・専門学群・総合学域群代表者会議

全学学類・専門学群・総合学域群代表者会議（通称、全代会）は各学類、専門学群、総合学域群のクラス代表者会議より3名ずつ選出された代表（座長団）によって構成されている大学公認の学生組織です。本会議を通して学生生活改善のための諸案などについて話し合い、大学へ要望を伝えるほか、学生の代表として意見を述べる役割を持っています。

また、全代会は6つの常任委員会によって構成されており、全代会の活動が円滑に行われるよう、また大学における授業や学生生活が向上するよう、さまざまな活動に取り組んでいます。

各委員会の詳細な活動内容や本会議の議題に興味がある方は年に3回、広報誌のCampusが発行されているほか、全代会HPも随時更新されておりますのでご参照ください。

クラス代表者会議

クラス代表者会議（通称、クラ代）は各クラスから選出されたクラス代表によって構成されている大学公認の学生組織です。比較文化学類では例年各クラスから2名ずつ選出されており、学類内やクラス内から出た学生生活における問題・意見を収集し、先生方や大学・学類に伝達する役割を持っています。主な活動としては1・2年生のクラス代表が参加して学類・クラスに関する問題や決め事について定期的に話し合う「定例会」のほか、比文生の意見をアンケートなどで集約し、先生方と話し合い大学・学類へ提出する「クラス連絡会」を年2回開催しています。また、学習室の整備や新歓・オープンキャンパス委員会との連携など、比文生の学生生活をよりよくするためにさまざまな活動に取り組んでいます。

新入生歓迎委員会

私たち新歓委員会は新入生の円滑な学生生活のサポートをするため、様々な企画を行っています。オリエンテーション局、イベント局、パンフレット局に分かれ、それぞれ入学式後のオリエンテーションの企画・実行、新入生同士・新入生と上級生の間の交流を図る多くのイベントの企画・実行、合格後に、大学についての情報をお届けする『とらのしっぽ』『虎の巻』などのパンフレットの発行を行なっています。これらの企画を通して、新入生がより多くの人と知り合い、より多くの情報を得て、快適な学生生活を送れるよう、活動に積極的に取り組んでいます。

オープンキャンパス委員会

オープンキャンパス委員会では毎年8月に行われる筑波大学説明会において、受験生に向けて比較文化学類でできる学び、つくばでの大学生活、比較文化学類の受験などについて説明会やイベントを通して伝えます。説明会では学生による大学紹介や教員による受験説明、模擬講義を行います。イベントとしては教員や学生による個別の面談や大学構内案内を行います。また、筑波大学での生活や受験についてまとめたパンフレットを作成し、公式の学類紹介とともに配布します。これらの活動を通して受験生に比較文化学類の良さを伝え、さらに受験や入学後において役立つ情報を提供します。

比文生の一日

ここでは、比較文化学類の学生の日常を学生目線でみなさんに紹介しようと思います。以下に紹介するのはあくまでもモデルなので、みなさんの興味ある授業を積極的にどんどん取ってみてください!!　ただ、絶対に取らなくてはいけない授業（必修授業といいます）や、受講制限のある授業もいくつかあるので、細かな履修については、しっかり履修要覧やシラバスを熟読してくださいね。では、平日と休日の過ごし方について、それぞれ紹介していきます。

比文生の一日 宅通編

07:45	起　床
08:30	出　発
09:30	つくば駅着
10:00	大学着
10:10	2限
11:25	昼休み
12:15	3限
13:30	空きコマ
15:15	5限＆6限
18:00	授業終了
19:00	夕　食
20:00	バスに乗る
20:20	つくば駅着
22:00	帰　宅
22:30	お風呂
23:30	自由時間
24:30	就　寝

宅通の朝は早い。
東京在住ですが、TXは早いので駅までは1時間もかかりません！
バスで移動します。
これが結構混んでいて時間がかかります。

お昼ご飯は学食と決めています。
大学内には食堂が10店舗以上あるので飽きないです！

控え室で勉強したり、図書館に行ったり。
たまにスターバックスでおやつを食べたり。

すぐ帰ってもいいのですが、お腹がすくので外食したり、友達の家に行って一緒にご飯を作ったりします。

電車の中ではSNSを見たり、課題をしたりしています。
遅すぎると明日に響くので、割と早めに寝るようにしています。

1年次のある木曜日

6:00	
7:00	
8:00	起床 朝食・宿舎を出発
9:00	
10:00	1・2限　データサイエンス
11:00	
12:00	昼休み（学食で昼食）
13:00	3限　比較文化研究
14:00	4限　概論科目
15:00	5限　日本語・ 日本文化学類 の授業
16:00	
17:00	一旦宿舎へ （家事・洗濯など）
18:00	
19:00	部活のトレーニング
20:00	
21:00	夕食（同期とトンカツ屋へ!）
22:00	
23:00	宿舎へ帰宅・課題
24:00	
25:00	就寝zzz…

8:00 平砂学生宿舎から教室までは自転車で5〜10分！急げ！
8:40 1年次の必修授業！
11:25 昼休みの学食は大にぎわい！パンやお弁当も充実しています。
12:15 「比較文化研究」や「概論」は主に1年生向けの授業です。あまり知らない分野でも基礎から学ぶことができるのでオススメです！
13:30
15:00
16:30 他学類の授業も取りやすい！
18:30 広く自然豊かな大学構内でランニングするのは爽快！
大学周辺には美味しいお店がたくさんあります！
21:00
22:00 試験期間にはテスト勉強やレポートの作成に追われます…コツコツ取り組もう！
25:00

平砂学生宿舎

第２エリア食堂

卒業後の進路

卒業生は、マスコミ、教育はもちろんのこと、
金融、流通、地方行政、国際機関、NGOなど、各界に広く受け入れられています。
大学院に進学する人も少なくありません。
社会で活躍する著名な先輩たちのなかには、芥川賞作家、マンガ家、クリエーターなどもいます。

楽しく生きる!!

― 比文のキャリア支援 ―

「キャリア教育」とか「キャリア支援」というと、「就活の準備でしょ?」と言われます。他大学でも「キャリア支援」といえばまさに「就職支援」。でもそれは大間違い!

私たちが考える「キャリア」って、あなたの「人生」のこと。あなたの生きている「この毎日」がまさにあなたのキャリア。つまりあなたはもうあなたのキャリアを生きているのです。だとすれば「キャリア支援」って?それは、あなたがあなたの人生を「もっと楽しく」、あなたの毎日を「もっとあなたらしく」生きていく支援なのです。

そのために必要なのはなにか?

それは「どんな人とでもフツーにつながっていける力」「どんな場所でも縮こまらず、下を向いて生きず、自分を責めず、他人の目を気にして迎合せず、目の前にいる人と一緒に考えて一緒に作っていける力」なのではないか?そう私たちは思っています。人生にはいろんな場面がある。でも、どんな時でも自分を殺さずに、目の前にいる人と普通に、平らにつながって、一緒に問題を解決していけば、きっと人生はどうにかなる。そうなればどんな場所に行ってもあなたは「ドレイ」にはならない。きっと人生はあなたのものになります。

もちろん「狭い意味」での就職支援も比文は提供しています。4年生たちとの「就活経験シェア会」、卒業生を迎えての「卒業生フォーラム」、各種インターンシップ、最先端の研究を行っている研究施設、大学・会社・社会の第一線で活躍する卒業生の職場などを訪れて研究者や企業家と話す機会 etc. 本学のキャリア支援室・就職課との連携だって比文はとても緊密です。でも、それだけじゃない。上級生と一緒にお菓子を食べながら時間割を相談する「履修相談会」、みんなで話題の映画を見て話し合ったり、自分たちのためのイベントを考えたりする「比文プロジェクト」。全部「いろんな人とつながって、あなたがあなたの毎日をプロデュースするためのキャリアの機会」、私たち比文があなたに提供しているキャリア・プレゼントなのです。

ここはあなたが「楽しく生きる」ことをトライする場所。そのトライが、卒業後のあなたの人生に直結する、今「ここ」での、もう始まっているあなたのキャリアなのです。

比文で取得できる免許

本学類では、教科および教職に関する科目を所定の単位数満たせば、中学校教諭一種・高等学校教諭一種の普通教員免許状（国語、社会（中）、地理歴史（高）、公民（高）、英語）を卒業時に取得できます。ほかにも、社会教育主事、学芸員、司書教諭などの免許も取得可能です。

就職・キャリア支援交流会

■ 近年の主な卒業生進路（例）

企業・団体

■マスコミ・出版
NHK
共同通信社
中京テレビ放送
テレビ信州
福井放送
東北新社
角川書店
新潮社
中央出版
宝島社
帝国書院
中国新聞社
信濃毎日新聞
朝日広告社
電通アドギア
博報堂プロダクツ
NHK エンタープライズ

■金融・保険
三菱東京 UFJ 信託銀行
常陽銀行
筑波銀行
八千代銀行
飯田信用金庫
愛媛銀行
三井住友海上火災保険
三井生命
アメリカンファミリー生命保険

■商社・流通
三菱商事ファッション
イオンリテール
ローソン
レナウン
東京流通センター
カスミ
ブックファースト

■運輸・旅行
日本航空
全日本空輸
東日本旅客鉄道（JR 東日本）
富士急行
首都高速道路
エイチ・アイ・エス
星野リゾート

■情報・通信
日本 IBM
楽天
ソフトバンク
NTT ドコモ
NTT 東日本
NTT コムウェア
日本郵便

■サービス
ニチイ学館
ユーキャン
リクルートジョブズ

■食品
味の素ゼネラルフーズ
江崎グリコ
カルビー
キリンビール

■機械・電機
日立建機
スズキ
竹中工務店
YKK
JFE スチール
JX 日鉱日石エネルギー
ダイキン

■医薬品
アステラス製薬
塩野義製薬

教員

■公立
茨城県　埼玉県　千葉県　静岡県　山梨県

■私立
東京聖徳学園　フェリス女学院

官庁・自治体・独立行政法人等

■官庁他
厚生労働省　国土交通省　警視庁　海上自衛隊　東京消防庁
宮城県警　群馬県警

■自治体

東京都	静岡県	いわき市	流山市	西郷村	江東区
茨城県	長野県	ひたちなか市	横浜市	美浦村	目黒区
埼玉県	石川県	つくば市	神戸市	港区	練馬区
千葉県	旭川市	守谷市	松江市	台東区	

■他
東京大学
高エネルギー加速器研究機構
全国共済農業共同組合連合会（JA 共済連）
日本芸術文化振興会（国立劇場）
日本新聞協会
横浜労災病院
静岡県立病院機構

進学

■筑波大学大学院
人文社会科学研究群　生命地球科学研究群　人間総合科学研究群

■他大学大学院

東京大学	金沢大学	自治医科大学	早稲田大学
東京外国語大学	大阪教育大学	明治大学	プリンスエドワード島大学
名古屋大学	白百合女子大学	明星大学	

笹山敬輔

富山めぐみ製薬株式会社／代表取締役社長
1998年度入学、2004年度卒業　比較現代文化専攻

私は比較文化学類を卒業後、筑波の大学院で演劇を研究し、今は富山の製薬会社を経営しています。仕事の傍ら研究を続け、2〜3年に1冊のペースで本を出したり、出版社からの依頼でインタビューをしたりもしています。

比文には、自分の好きなことを自由に研究できる環境がありました。演劇を研究したのも、大学に入ってから芝居を観たり、舞台のスタッフを手伝ったりしたことがきっかけです。

今の世の中は、すぐに「役に立つ」知識ばかりが求められています。しかし、変化の早い時代には将来、何が「役に立つ」か分かりません。比文に興味があるみなさんは、文学、映画、マンガ、アニメ、ゲームなど、きっと何か好きなものがあるでしょう。たとえ仕事に直結しなくても、人生で辛い出来事にぶつかったとき、その好きなものがみなさんを救ってくれるはずです。ぜひ比文で好きなもの極めて、本当の生きる力を身につけてほしいと思います。

武智玖海人

公益財団法人日本交通公社 観光経済研究部 研究員
2012年度入学、2015年度卒業　文化地理学コース

比較文化学類文化地理学コースを卒業後、筑波の大学院で地理学を専攻し、現在は観光分野に特化したシンクタンクで研究員として働いています。政府観光統計や旅行市場調査の集計分析といった業務を中心に、観光の振興や発展に携わるお仕事をしています。

旅行や観光と聞くと身近で取っつきやすいイメージを持たれるかもしれませんが、実は様々な要素が絡み合った複雑なテーマの一つです。このテーマに取り組むには、1つの分野における専門性だけでなく、しなやかで分野横断的な思考や発想が必要だと日々感じています。

比較文化学類では地理学のみならず、外国語や歴史、文化、思想、メディア論など幅広い分野を学びました。そこで培った社会で起きる現象を多角的に捉え、分析する力が今の仕事に活きています。

留学生も多くグローバルな筑波大学と学際的な比較文化学類の良さが相まって、"比文"で過ごす学生時代は皆さんの視野と活躍の場を大きく広げてくれるはずです！

公益財団法人日本交通公社
「旅の図書館」にて

小野美菜子

つくば市高エネルギー加速器研究機構（KEK）
2012年度入学、2015年度卒業　日本文学専攻

「筑波大学に入って研究者になりたい」私は志望動機に堂々とこう答え、入学を果たしました。入学してからは、昔から好きだった日本文学だけではなく、興味のあったドイツ語を学び、民俗学や地域研究のゼミも受講しました。気になった分野にアクセスできるのが、比較文化学類の強みです。

さて、私は現在、つくば市の高エネルギー加速器研究機構（KEK）の職員として働いています。納得しての就職でしたが、もう少し卒業論文を深めたいと思い、放送大学の修士課程に進みました。平日は仕事、休日は図書館という生活は苦しい時もありましたが、無事に修了することができました。

大学生活で培われる、情報処理能力や表現力は、仕事をするうえで活きてきます。しかしそれ以上に、自分の「好き」に真剣に向き合い考え抜くという経験は、一生の財産です。たくさんの「好き」がある人も、一つのことが熱烈に大好きという人も、比文で深めてみてはいかがでしょうか。

伊藤智比古

流山市立博物館学芸員
2012年度入学、2015年度卒業　地域主専攻日本研究分野

比較文化学類を卒業後、筑波大学大学院人文社会科学研究科歴史・人類学専攻に進学し、2020年4月に現職に就きました。

日本史や地域研究に興味を持って入学した私は、日本研究分野を選びました。卒業論文では、アジア・太平洋戦争の時代に刊行されていた子ども向けの週刊誌を分析し、当時の子どもたちに求められていた「小国民像」を考察しました。

現在、流山市立博物館で学芸員として働いています。博物館の主たる機能は資料を集め、保管し、それらを調査・研究し、展示・公開すること、あるいはその成果を普及することで、学芸員はそのすべてに関わる仕事です。その多岐にわたる業務から「雑芸員」と自嘲的に言われることもあります。そうした仕事の内容は、自分の専門とは関わらないことも珍しくありません。私自身の場合も、市内を走る鉄道の資料を調べる傍ら、展示会を企画し、あるいは古文書講座や子ども向けイベントの準備を進める……といった日々を送っています。

所属は2021年3月時点

吉田雄貴

福島民報社/編集局社会部記者
2009年度入学、2016年度卒業　比較現代文化専攻

福島県の地元紙、福島民報社で記者として働いています。東京電力福島第一原発事故の被災者が国や東電に損害賠償を求めた裁判の取材などを主に担当しています。

さて、私の大学時代は決して順風満帆ではありませんでした。留年や休学を重ね８年間！在籍しました。留学など大きな目的があった訳ではありません。大学にうまく通えない時期があったのです。

逆を言えば、比較文化学類はそんな学生を受け入れてくれる懐の広い場所です。私は当初、学校に行くのが苦手な自分を受け入れられませんでした。家族や親族にもかなり迷惑をかけましたから。ただ、比文で学び、世の中が広く見えるにつれ「こんな大学生活もアリだな」と開き直れるようになりました。この経験は新聞記者という仕事でも役立っています。

８年もかかって就職は？という疑問もあるでしょう。でも、自分の経験を受け止めてアウトプットできれば必ず縁があります。

比較文化学類は多様な生き方が学べる場です。いつか、比文を選んだ皆さんと同門の友としてお会いする日を楽しみにしています。

倉富春奈

日本放送協会 ディレクター
2013年度入学、2016年度卒業　主専攻は比較宗教コース

現在、静岡局に勤務しています。ニュースのリポート、報道や旅、ドキュメンタリー番組の企画・制作を担当しています。仕事で大切にしているのは、自分の見方や考え方が全てではないという前提を持ち、相手はなぜその見方・考え方をするのか、客観的に受けとめるよう努めることです。振り返ると、こうした姿勢は、比較文化学類の学びで築かれたものだと感じます。専攻の比較宗教は、宗教を相対的に比較し「人はなぜ聖なるものを信仰するのか」という問いの答えを探す学問。国境や言語の違いを超えて、何かを信じ尊ぶ気持ちが共有されることに、人の心の豊かさ感じていました。とはいえ、大学時代の思い出というと、３食のソフトクリームを片手に、友人とひたすらおしゃべりしていた光景が浮かびます。一生の友との出会いも含めて、私の人生の礎になった時代です。自由気ままに、興味の赴くままに、比文で様々な学びに触れ、実り多き４年間にしていってください。

池上慶行

land down under 代表
2012年度入学、2016年度卒業　文化人類学専攻

比較文化学類で学んだ文化人類学を深めようと、京都大学大学院（修士課程）に進学。その後、就職・転職を経て、現在はアパレルブランドを営んでいます。

いつの、どんな経験や繋がりが、今の自分を助けてくれるのかわからないと思うことがあります。個人で活動する現在、とくに痛感します。だからこそ、好奇心をもって動き回ることや、垣根なく多様な人と関わることが大切だと感じます。

思い返せば、一見役に立つのかわからないような学問に触れたり、ニッチな知識・知恵をもった変人たちと交流したり、学生時代にこうしたことを「面白がれる」ようになったことが、今の自分を支えてくれています。

正直、部活動一色と言っても過言でなかった４年間を過ごしました。しかし、そのなかでも、かけがえのないことを学べたのは、各々のペースに寄り添うゆるやかな学風と、一方で、学ぶ意欲にきちんと応えてくれる環境が比文にあったからだと感じます。

境野圭佑

茨城県立太田第一高等学校教諭
2015年度入学　2018年度卒業　日本研究コース

日本史と教職に関心があった私は、筑波大学を進学先に決めました。比較文化学類を選んだ理由は、自分の興味や関心に沿って主体的に学べるからです。

比文では、日本研究コースに所属し、伊藤純郎先生、山澤学先生のもとで地域史研究の基礎知識や方法論を学びました。また、広島や長崎に足を運び、京都の祇園祭を見学し、栃木県芳賀町で聞き取り調査を行い、卒論では石岡のまつりを題材に、創られた「伝統」に関して論じました。

比文を卒業後、修士課程教育研究科 に進み、比文での研究テーマを発展させ、地域史を活用した歴史学習について修士論文を執筆しました。

令和３年度から高校地歴科の教員として茨城県立太田第一高等学校に勤務しています。常陸太田は晩年の水戸光圀が過ごした隠居所である西山荘がある地です。比文で培った研究手法を活かし、足元から問い直す歴史研究をこれからも続けたいと思います。そのような一生もののテーマを、みなさんも比文で見つけてみませんか。

所属は2021年3月時点

総合選抜で受験し、２年次で比較文化学類に進む

比較文化学類で学ぶには、入学時から比較文化学類に所属する方法のほかに、筑波大学が令和３年度（2021 年度）入試から新たに取り入れた「総合選抜」で受験する方法があります。

総合選抜での受験

〈個別学力検査等　前期日程（総合選抜）〉を、「文系」「理系Ⅰ」「理系Ⅱ」「理系Ⅲ」のいずれかの選抜区分で受験します。

総合学域群

入学後の１年間は「総合学域群」に所属します。ここで、さまざまな問題意識や将来の夢をもつ学生たちと接することができます。１年間の学びの後、所属する学類・専門学群が決まります。これを「移行」と呼びます。

・１年次の学修

学類・専門学群の学生と同様に、「共通科目」（体育、外国語、情報など）および各学類・専門学群が提供する全学向け入門科目である「専門導入科目」を主として学修します。

各学類・専門学群への入学者が、学類が定めた計画に沿って学修するのに対して、総合学域群の学生は、2年次での移行先を絞っていくために、複数の学類・専門学群の提供する科目をより幅広く学修することになるでしょう。比較文化学類を志望先の１つとするには、比較文化学類が提供する専門導入科目を２つ学修していれば大丈夫です。

・各学類・専門学群への移行まで

１年次のおわりに、２年次に「移行」する学類・専門学群が決まります。どの学類・専門学群に移行するかは、学生本人の志望と、入学後の成績等に基づいて決定します。

比較文化学類では、総合学域群から 20 名の学生を受け入れます。うち 17 名は「文系」優先受入枠です。また３名の範囲内で「理系」からも移行可能です。

＊詳しくは、下記の総合学域群 Web サイトをチェックしてください。

URL　http://scs.tsukuba.ac.jp/

Q&A

Q1：前期日程の総合選抜と学類・専門学群選抜を併願できますか？

A1：できません。

Q2：総合選抜と学類・専門学群選抜では出願資格に違いはありますか？

A2：ありません。

Q3：総合選抜と学類・専門学群選抜の試験問題は違うのですか？

A3：同じ問題です。

Q4：高校時代の成績や入学試験での成績は学類・専門学群への移行に関係しますか？

A4：まったく関係しません。

参考　「文系」の学生が移行先として選びやすいのは…

「文系」選抜区分での入学者を優先して受け入れる学類	人文学類 比較文化学類 日本語・日本文化学類 社会学類 知識情報・図書館学類 看護学類
とくに優先受入枠を設けていない学類・専門学群	国際総合学類 教育学類 心理学類 障害科学類 医学類 芸術専門学群

ほかにも、体育専門学群を除くすべての学群・学類に移行する道があります

２年次から卒業まで 比較文化学類生として

比較文化学類に移行した学生は、
２年次から卒業まで比較文化学類生として学びます。
総合学域群時代に培った広い視野や
人間関係を生かしながら、
充実した学生時代を送ってください。

入試案内

■アドミッションセンター入学試験（AC 入試）
　試験時期／ 10 月　　試験科目／書類審査、面接　　募集人員／ 5 名
■推薦入学試験
　試験時期／ 11 月　　試験科目／小論文、面接　　募集人員／ 20 名
■一般入学試験
　試験時期／大学入学共通テスト 1 月・個別学力検査　前期日程 2 月
　試験科目／（前期日程）大学入学共通テスト、個別学力検査
　募集人員／総合選抜 20 名（ 2 年次受入定員）、学類選抜 35 名
このほかに、以下の入試があります。
　●「私費留学生入学試験」（日本国籍を有しない者が対象／試験時期 2 月／若干名）
　●「国際バカロレア特別入試」（国際バカロレア資格取得者が対象／試験時期 11 月／若干名）

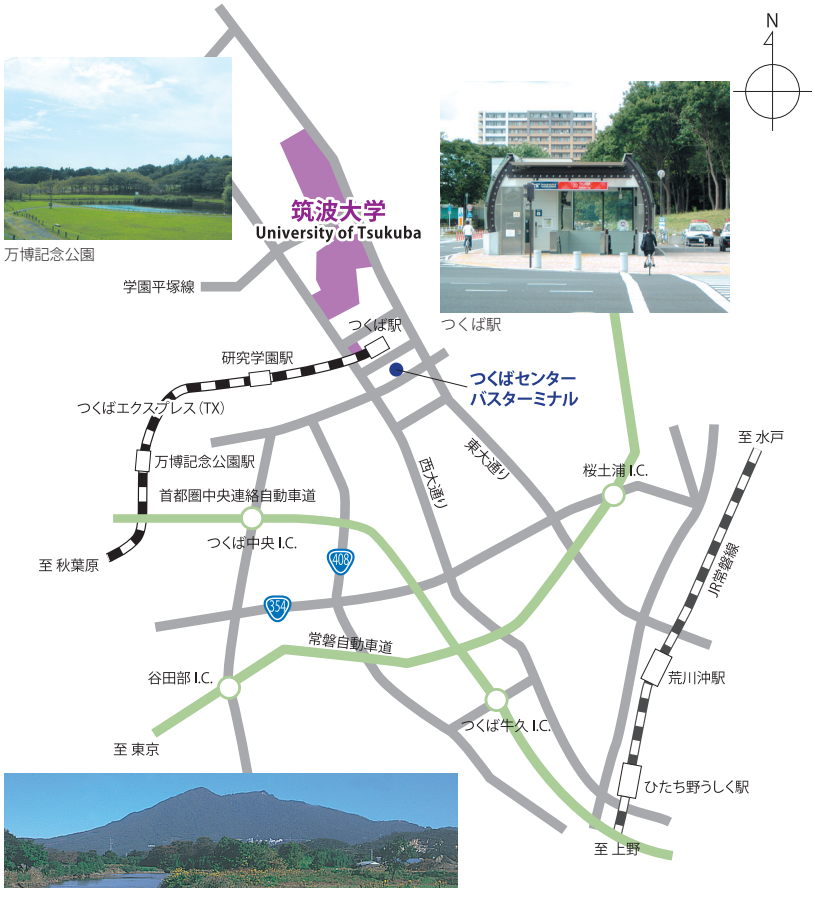
令和 4 年度以降の入試情報については、大学入試課による広報（http://www.tsukuba.ac.jp/admission/undergrad/news_undergrad.html）をご確認ください。

問い合わせ先
〒 305-8577
茨城県つくば市天王台 1-1-1
筑波大学　教育推進部　入試課
TEL. 029-853-6007（直通）

オープンキャンパス

比較文化学類についての詳しい情報はオープンキャンパスで！
変更の可能性があるので事前に必ずホームページ等で確認してください。
比較文化学類ホームページ　**http://www.hibun.tsukuba.ac.jp/**

アクセス



○つくばエクスプレス（TX）
秋葉原から終点「つくば」駅まで快速で約 45 分です。「つくば」駅からは「筑波大学循環」または「筑波大学中央」行きのバスに乗り換えてください。

○ JR 常磐線
土浦駅、荒川沖駅またはひたち野うしく駅のいずれかで下車し、「筑波大学中央」行きの関東鉄道バスに乗り、約 40 分。

○高速バス
東京駅八重洲南口高速バスターミナル発の「筑波大学」行き乗車で約 75 分です（「つくばセンター」止まり（約 65 分）の場合は、終点「つくばセンター」のバスターミナルで「筑波大学循環」または「筑波大学中央」行きのバスに乗り換えてください）。

○自動車
常磐高速道路「桜土浦 IC」で降り、「東大通り」を北上すると、約 15 分で筑波大学構内に着きます。または圏央道「つくば中央 IC」で降りて、県道 19 号線と 24 号線を経由して北上する場合でも、約 15 分で筑波大学に到着します。

比較文化学類の教室や学類長室がある第二エリアには「筑波大学中央」のバス停が便利です。

筑波大学　比較文化学類

〒 305-8572　茨城県つくば市天王台 1-1-1
筑波大学　比較文化学類長室（筑波大学 2C 棟 301-1）
TEL. 029-853-6751　FAX. 029-853-4551
http://www.hibun.tsukuba.ac.jp/